

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type -HS • User's Manual

オフィスシリーズ Type -HS

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。

ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



表示されている電源（交流100V）以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



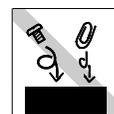
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

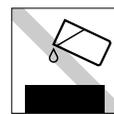
感電・火災の原因となります。



異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



警告

破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

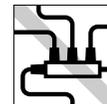
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

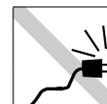
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは、絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。

感電の原因となります。



注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



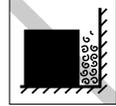
⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

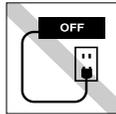


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
次のような場所には設置しないでください。

- ・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- ・ じゅうたんや布団の上
- ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



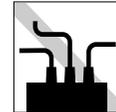
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



拡張カードやメモリの交換・増設などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。
火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となる恐れがあります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。誤ってこれらのディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。
接続すると、火災の危険があります。



イジェクトピンは、小さなお子様の手の届くところには保管しないでください。
目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。

（光磁気ディスクドライブ搭載モデル）



使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、フロッピーディスクドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、リチウム電池の交換、ハードディスク領域の変更方法、仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について	(7)
---------------	-----

製品保護上の注意	(9)
----------	-----

使用・保管時の注意	(9)
記録メディア	(10)
マウス	(11)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	2
--------	---

コンピュータを使い始めるまでの手順	2
ご使用前の確認事項	3
システムの特長	5
添付されているソフトウェア	6

各部の名称と働き	8
----------	---

本体前面	8
本体背面	9

コンピュータの設置	10
-----------	----

電源の入れ方とWindowsのセットアップ	17
-----------------------	----

Windowsを使用できるようになるまでの作業	17
電源を入れる前に	18
電源の入れ方とWindowsの起動	19
Windowsのセットアップ	20

セットアップ終了後の作業	24
--------------	----

バックアップディスクの作成	24
Windows98起動ディスクの作成 (Windows98のみ)	26
セットアップブートディスクの作成 (Windows2000のみ)	27
ネットワークに接続する	28
VirusScan for Windowsの インストール	28
そのほかの設定	28

Windows使用時の確認事項	29
-----------------	----

2回目以降に電源を入れる	29
--------------	----

省電力機能	29
デバイスドライバを インストールするときは	30
購入時のHDD領域の設定について	30

電源の切り方	31
--------	----

Windows98の終了と電源の切り方	31
Windows2000の終了と電源の切り方	32
リセット	33

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	36
----------	----

キーの種類と役割	36
文字を入力するには	37
日本語を入力するには	37
キーロック表示ランプ	38
Windowsキー	39

マウスを使う	40
--------	----

マウスの操作	40
マウスの設定変更	40

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う	41
-------------------------	----

FDのセットと取り出し	41
FDのフォーマット	43
データのバックアップ	44
ライトプロテクト(書き込み禁止)	44

HDD (ハードディスクドライブ) を使う	45
-----------------------	----

データのバックアップ	45
HDDのフォーマット	46
購入時のHDD領域について	46

CD-ROMドライブを使う	47
---------------	----

CD-ROMのセットと取り出し	47
強制的なCD-ROMの取り出し	48

光磁気ディスクドライブを使う	49
----------------	----

MOのセットと取り出し	49
-------------	----

MOのフォーマット	50
ライトプロテクト(書き込み禁止) ..	50
強制的なMOの取り出し	51
解像度や表示色を変更する	52
省電力機能を使う	54
省電力機能の種類	54
実行方法	56
復帰方法	57
その他の機能	58
サウンド機能	58
ネットワーク機能	59
パラレルコネクタ	59
シリアルコネクタ	60
USBコネクタ	60
コンピュータウィルスの検索・駆除 ..	60
システムの拡張	
拡張できる装置	62
作業時の注意	63
拡張時の準備作業	64
本体カバーの取り外し・取り付け	64
フロントパネルの取り外し・取り付け ..	66
フェイスプレートの 取り外し・取り付け	69
DIMMの増設	70
DIMMの仕様	70
DIMMの取り付け	71
拡張カードの装着	75
拡張スロットの仕様	75
拡張カードの装着	76
ドライブベイへのドライブの装着 ..	79
5.25型ドライブベイへの装着	79

HDDベイへの装着	82
ドライブ装置の装着	86
ドライブ装置の種類	86
IDE装置の設定	87
SCSI装置の設定	89
ドライブ装置(IDE装置)の接続例 ...	90

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	94
BIOS Setupユーティリティの操作 ..	95
BIOS Setupユーティリティの起動	95
BIOS Setupユーティリティの操作	96
設定値をもとに戻すには	98
BIOS Setupユーティリティの終了	99
BIOS Setupユーティリティの設定項目 ..	100
Mainメニュー画面	100
Passwordの設定	102
Advancedメニュー画面	104
Powerメニュー画面	106
Bootメニュー画面	108
Exitメニュー画面	109
BIOSの設定値	109

ソフトウェアの再インストール

Windows98のインストール	114
インストールの準備	114
インストールの順番	115
インストール時の注意	116
基本MS-DOS領域のフォーマット ..	118
Windows98のインストール	119
デバイスの設定(Intel845チップ セット用ドライバの設定)	121
DAM転送の設定	122
ネットワークドライバのインストール ...	123

サウンドドライバのインストール ...	125
ディスプレイドライバのインストール ...	126
マウスドライバのインストール ...	127
Adobe Acrobat ReaderとVirusScan for Windowsのインストール	127
そのほかの作業	128

Windows2000のインストール 129

インストールの準備	129
インストールの順番	130
インストール時の注意	131
基本MS-DOS領域のフォーマット ..	133
Windows2000のインストール	134
デバイスの設定(Intel845チップ セット用ドライバの設定)	136
DMA転送の設定	137
ネットワークドライバのインストール ...	138
サウンドドライバのインストール ...	140
ディスプレイドライバのインストール ...	140
マウスドライバのインストール ...	141
Adobe Acrobat ReaderとVirusScan for Windowsのインストール	141
各種ドライバのインストール	142

こんなときは

困ったときに 144

コンピュータ本体の不具合	144
省電力機能に関する不具合	147
キーボードの不具合	148
マウスの不具合	149
ディスプレイの不具合	150
FDDの不具合	152
HDDの不具合	153
CD-ROMドライブの不具合	154
アプリケーションソフトの不具合 .	155
メモリの不具合	156
インストール時の不具合	157
拡張カード、周辺機器の増設に 関する不具合	158

プリンタの不具合	159
スピーカの不具合	159

警告メッセージが表示されたら 160

付録

お手入れ 164

本機のお手入れ	164
マウスのお手入れ	164

リチウム電池の交換 166

CMOS RAMの初期化 169

HDD領域の変更 171

MS-DOS領域の種類	171
HDD領域の変更	172
FDISKコマンド	173
既存領域の削除	174
MS-DOS領域の変更	176
MS-DOS領域のフォーマット	179

コンピュータ内部のケーブル接続 180

機能仕様一覧 182

用語集 183

索引 190

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



1 2



制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載してあります。

参考事項です。

覚えておく便利なことを記載してあります。

説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。

この例では、を押したまま を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータで使用する次の製品の名称をアルファベットで表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書では、オペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 98

Microsoft® Windows® 98 Operating system

Windows 2000

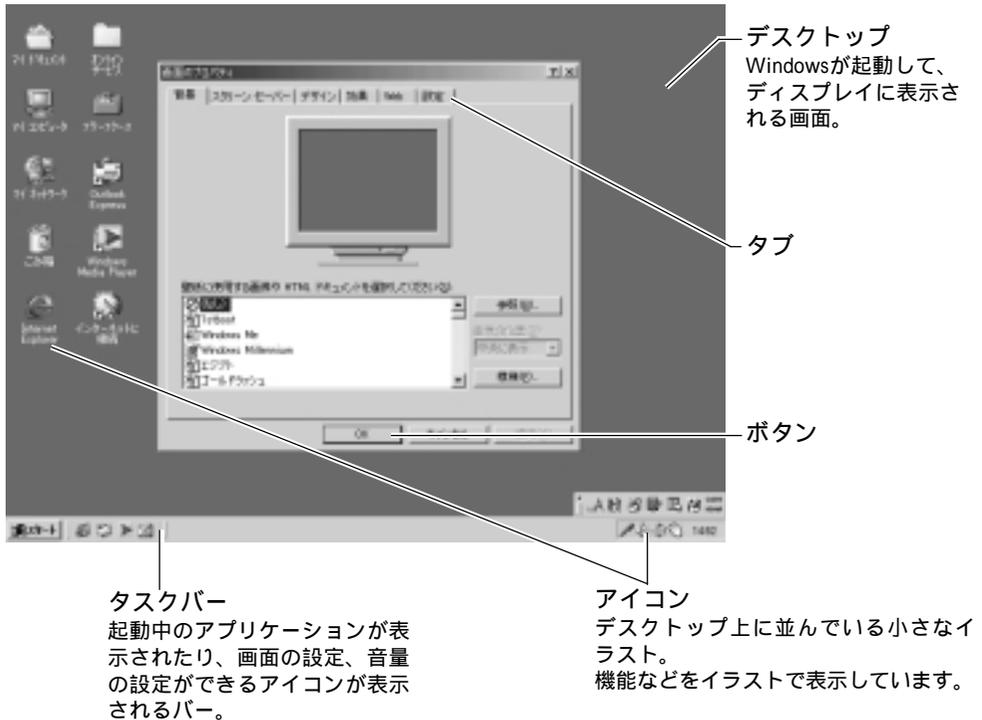
Microsoft® Windows® 2000 Professional

MS-DOS

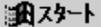
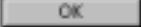
Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

Windowsの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは、[]で囲んで記載します。

例  スタート : [スタート]  : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

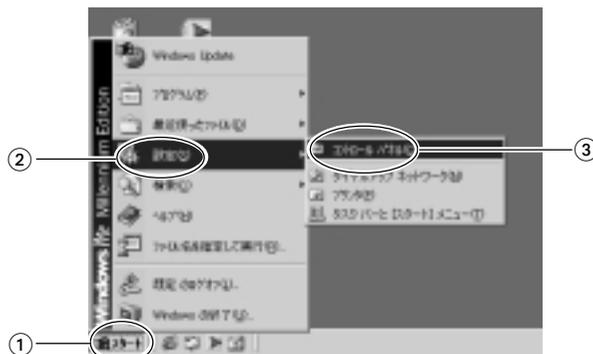
本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

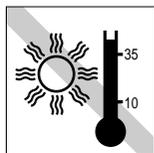
③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。



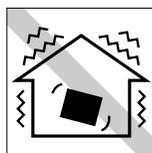
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

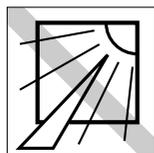
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



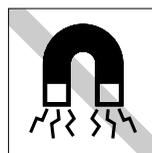
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



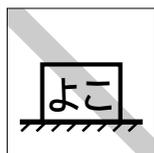
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



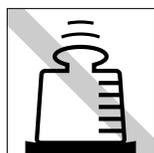
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



コンピュータ本体を横置きにしないでください。
故障、誤動作の原因になります。本機は縦置き専用に設計されています。



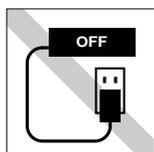
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



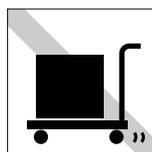
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



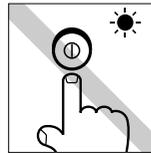
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（HDD、CD-ROMドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、FD、CD-ROMなどは取り出してください。



アクセスランプが点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

FD

CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

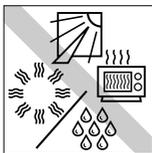
光磁気ディスク

FD

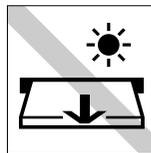
CD

MO

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



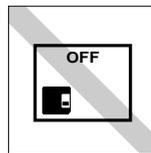
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



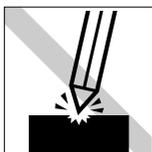
アクセスランプが点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。



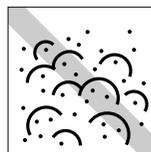
上に物を載せないでください。



使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



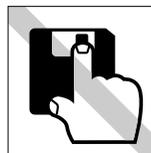
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

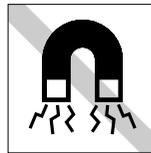


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD MO

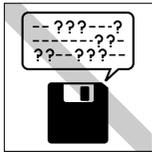


磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD MO



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MO



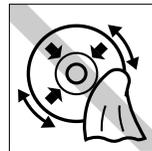
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
 磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。FD



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
 クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
 CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD



CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。CD



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。CD

マウス

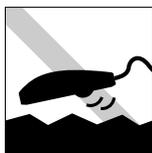
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



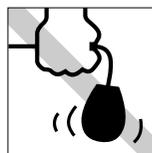
落としたり、ぶつかけたりして強い衝撃を与えないでください。



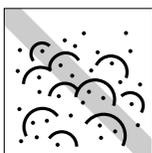
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

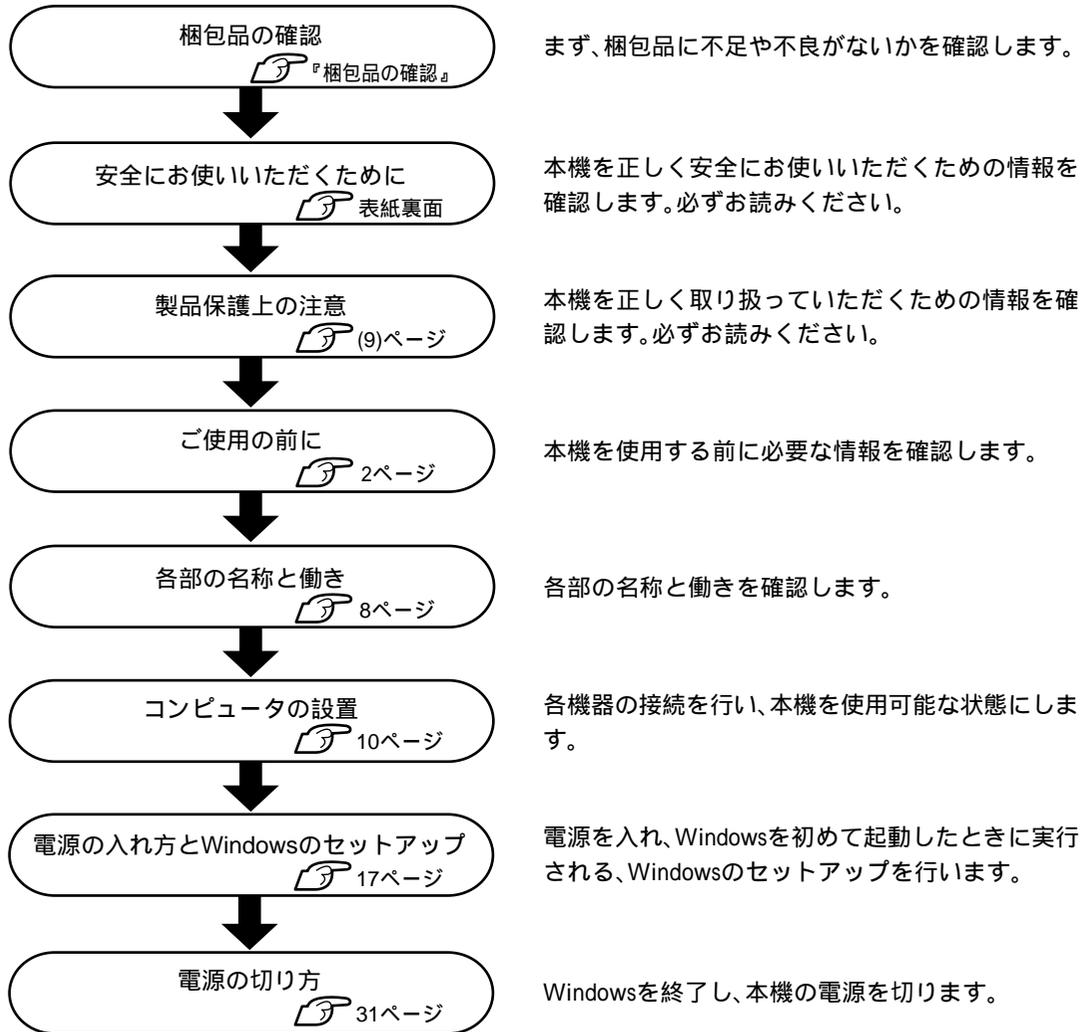
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

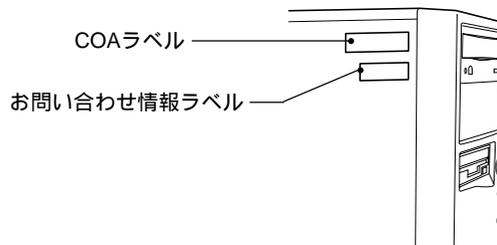
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。また、COAラベルには「ProductKey」が記載されています。「ProductKey」は、Windowsの再インストール時に必要です。コンピュータからCOAラベルを絶対にはがさないようにしてください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システム構成 の確認

本書では特に記載がない限り、下記システム構成を前提として説明を行っています。購入されたシステム構成が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは各装置に添付のマニュアルを参照してください。

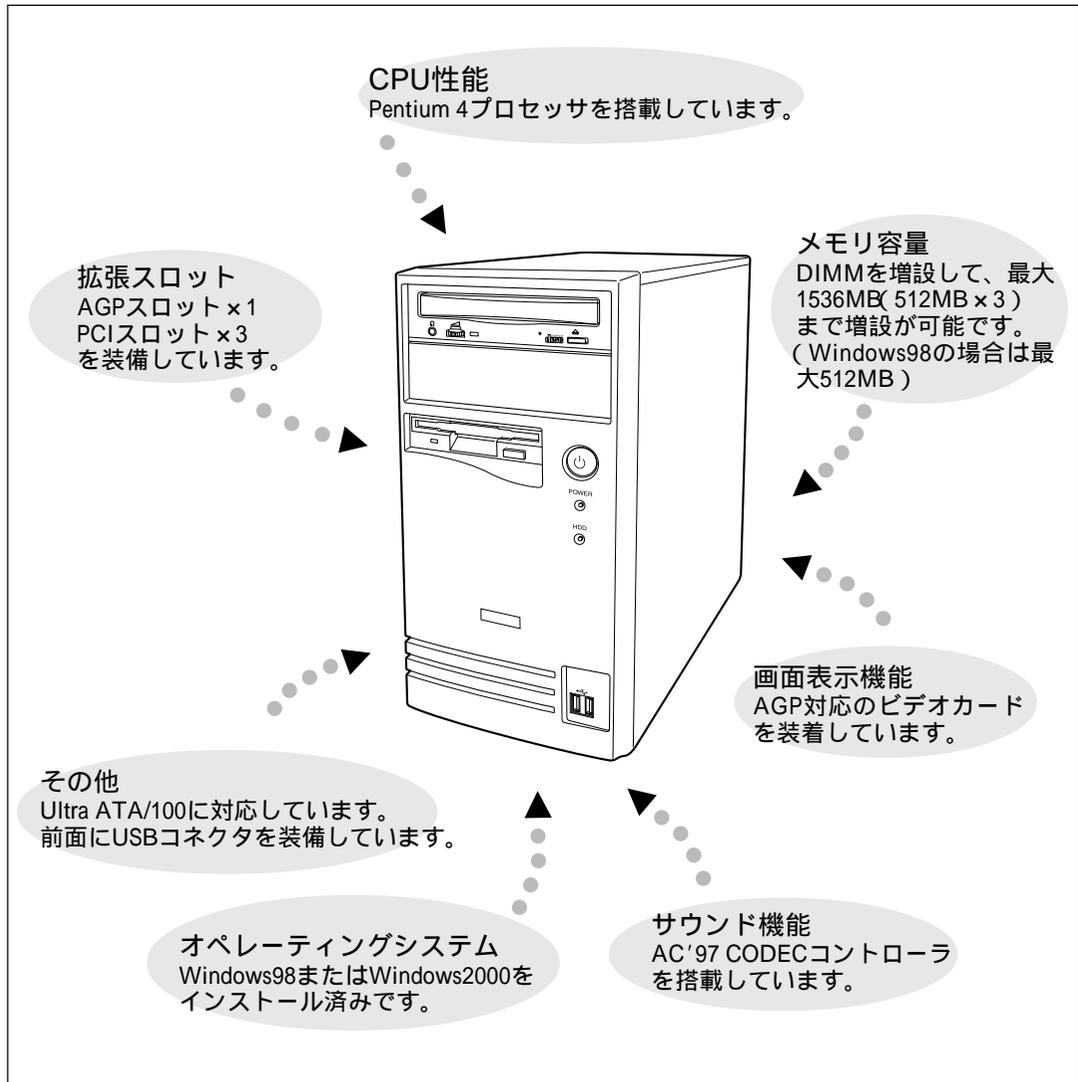
DIMM(メモリ)	: 1本
HDD	: 1基
5.25型ドライブ装置	: CD-ROMドライブ1基
ディスプレイ機能	: 拡張カードを使用
サウンド機能	: メインボードの機能を使用
FAXモデム機能	: なし

上記に記載のない部分は、仕様が同じ、または仕様が違ってても本書の記載内容が変わらない部分です。

システム構成の詳細は、p.182「機能仕様一覧」をご覧ください。

システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時のシステム構成によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。

記号の見方	
ソフトウェア添付形態	インストール状態
  : ディスクが添付されています。	 : 内蔵HDDにインストールされています。
Ⓑ: バックアップディスクの作成が必要です。  p.24「バックアップディスクの作成」	 : インストールされていません。Windowsのセットアップ後にインストールしてください。

ソフトウェア	添付状態	インストール状態	
		Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
Windows Windowsは、最新のものがインストールされています。	 *1		
リカバリCD-ROMセットアップ用プログラム ・FDISKやFORMATコマンドが登録されています。 (Windows2000インストールモデルのみ) ・Windowsの再インストール時に使用します。	 *2		
Intel845チップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするドライバです。	 *3		
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのドライバです。	 *3		
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。メインボード上のサウンド機能専用です。	 *3  *8		
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	 *4		
マウスドライバ マウスを使用するためのドライバです。	 *5		

ソフトウェア	添付状態	インストール状態	
		Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
VirusScan for Windows 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる 高機能なウイルス対策プログラムです。  『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子 マニュアル)』	 *6		
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザ インやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの 表示やプリントができるソフトウェアです。	 *6		
ユーザーズマニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアルファイル(本書)が、コンピュ ータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されてい ます。	 *7		

* 各ソフトウェアは次のディスクに登録されています。

*1「リカバリCD-ROM」

*2「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」

*3「ドライバCD」

*4「ビデオドライバディスク(ビデオカードによって名称が異なります。)

*5「マウสดライバCD」

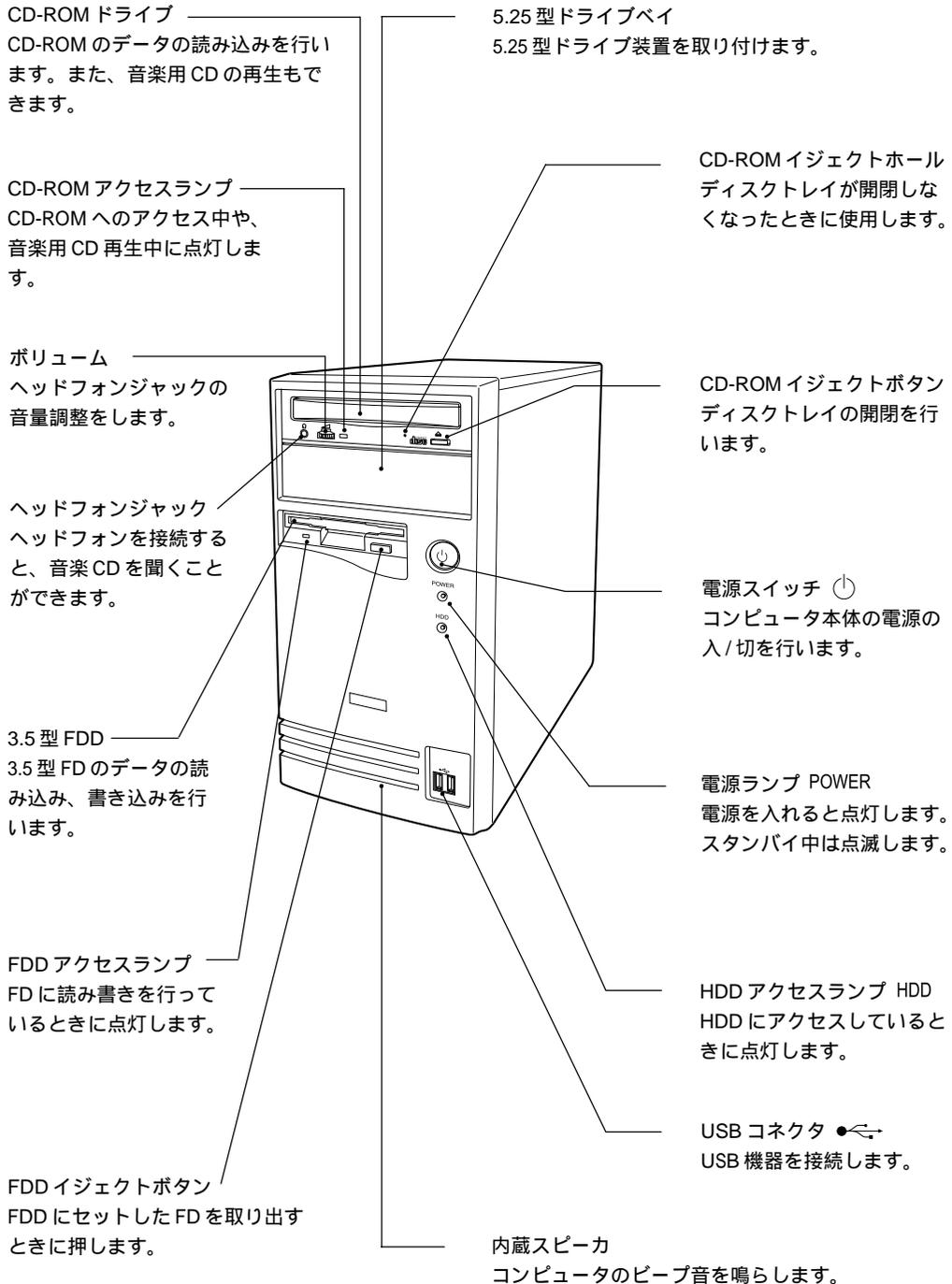
*6「ユーティリティCD」

*7「マニュアルディスク(バックアップFD作成時の名称)

*8「サウンドドライバディスク(サウンドカードを同時に購入された場合は、専用ドライバディスク
 が添付されています。)

各部の名称と働き

本体前面



本体背面



ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。誤ってこれらのディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。

マウスコネクタ 
マウスを接続します。

キーボードコネクタ 
キーボードを接続します。

シリアルコネクタ 
モデムなど、RS-232C インタフェースに対応した装置を接続します。

ライン出力コネクタ 
アンプ内蔵スピーカーやヘッドフォンなどを接続します。

ライン入力コネクタ 
カセットデッキなどのオーディオ機器の出力信号線を接続します。

マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。

USB コネクタ 
USB 機器を接続します。

ビデオカード
購入されたカードによりコネクタの位置が異なります。

VGA (モニタ) コネクタ 
ディスプレイを接続します。

冷却ファン
内部で発生する熱を逃がしたり、冷ましたりします。

電源コネクタ
添付の電源コードを接続して電気を供給します。

パラレルコネクタ 
プリンタや、スキャナなどを接続します。

ゲームポート/
MIDI コネクタ 
ジョイスティックなどを接続します。

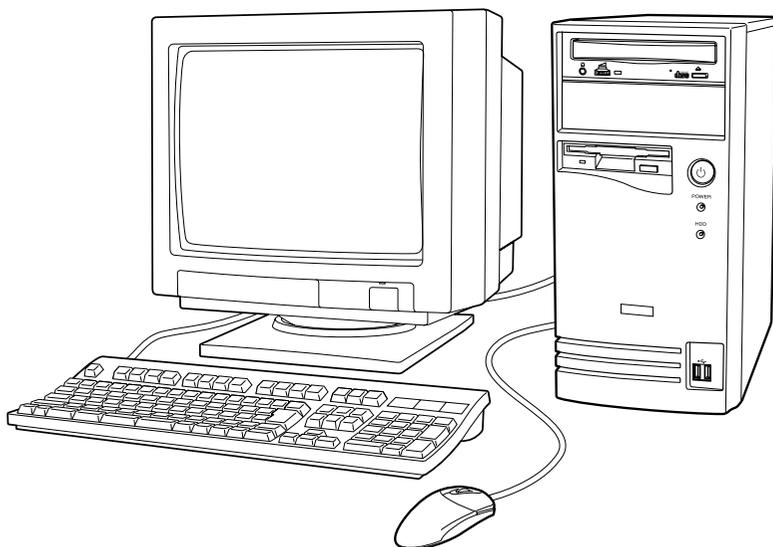
ネットワークコネクタ 
ネットワーク接続用のコネクタです。

拡張スロット
拡張カードを装着します。購入時のシステム構成によっては、あらかじめ拡張カードが装着されています。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところ
 - ・じゅうたんや布団の上
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p.(9)「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは、刃の根元まで確実に差し込む。



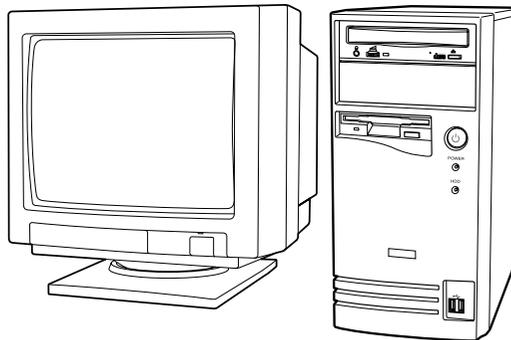
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設 置

1

コンピュータの設置場所(丈夫で水平な机の上など)を決めて設置します。

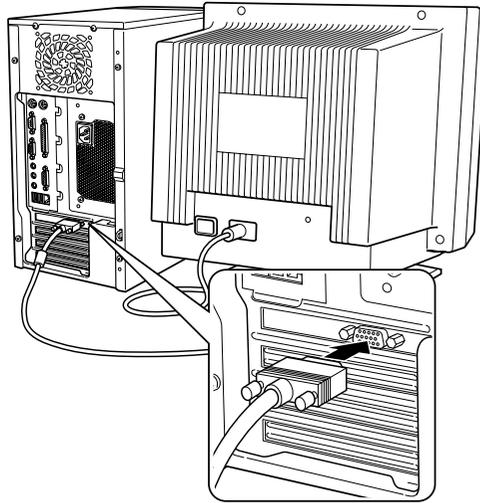
本機は横置きにできません。必ず縦置きに設置してお使いください。



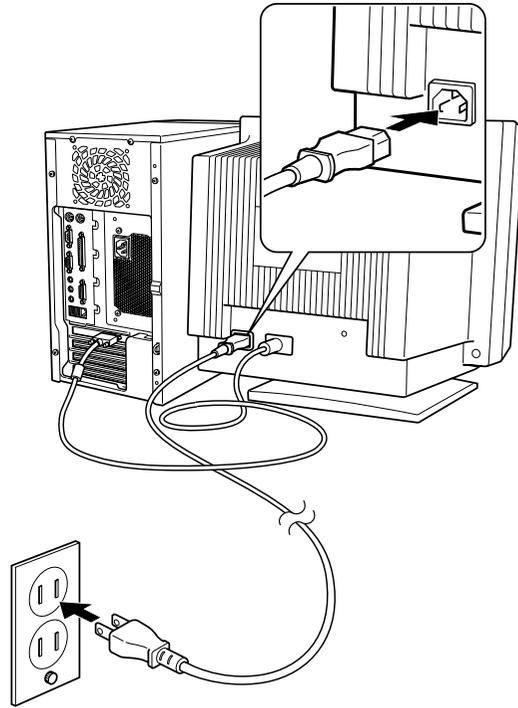
ディスプレイの接続

ここでは、一般的なディスプレイの接続方法を説明します。ディスプレイの取扱上の注意や詳しい使用方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- 2** ディスプレイの接続コードを、ビデオカードのVGA(モニタ)コネクタ(青色)に接続します。



3 ディスプレイの電源コードを、ディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。

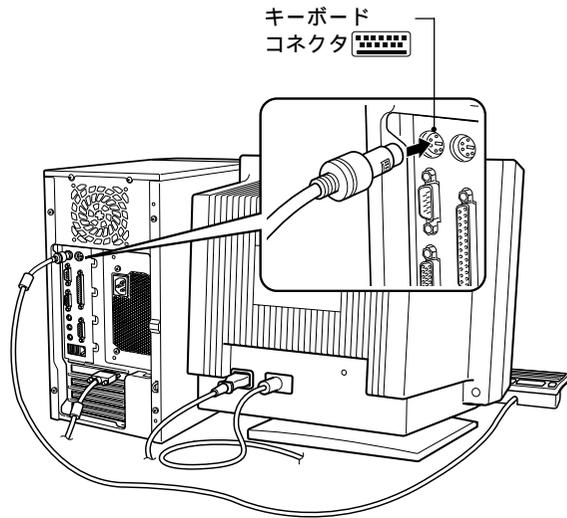


使い始めるまでの準備

キーボードの接続

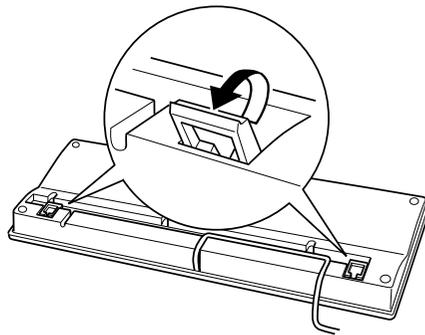
4

キーボードケーブルのコネクタを、本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



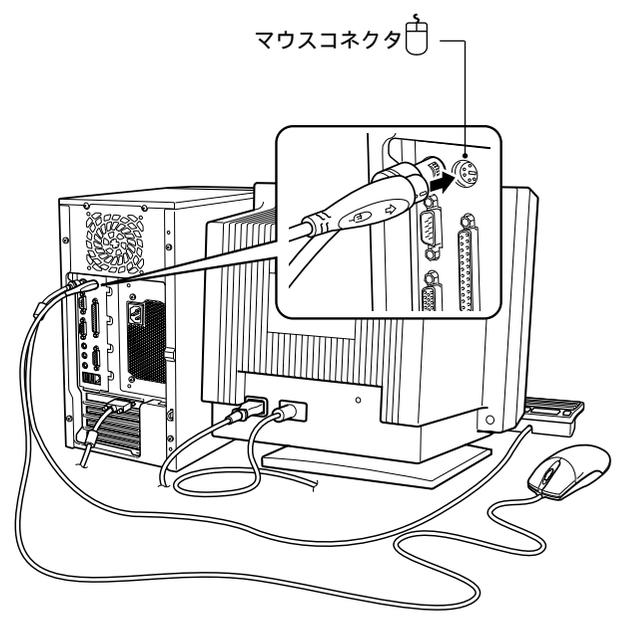
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは、両端の脚を起こします。
- キーボードコードを、左右どちらかの底面の溝から引き出します。



マウスの接続

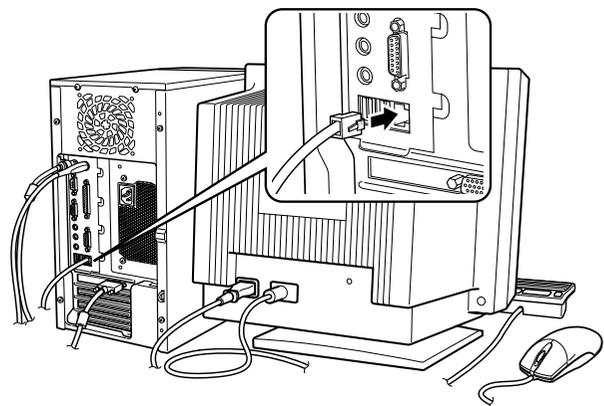
5 マウスケーブルのコネクタを、本機のマウスコネクタ(緑色)に差し込みます。



ネットワークへの接続

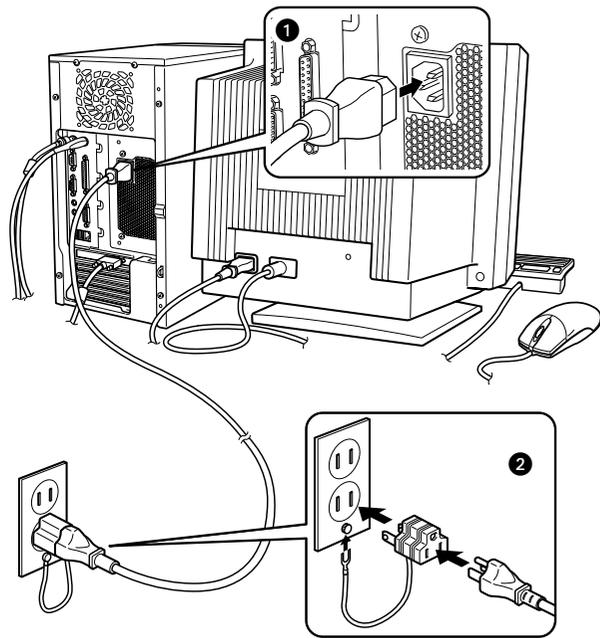
6 ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワーク用ケーブルをネットワークコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



7 電源コードを接続します。

- ① 電源コードを本体の電源コネクタに接続します。
- ② 添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、家庭用電源コンセントに接続します。
アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



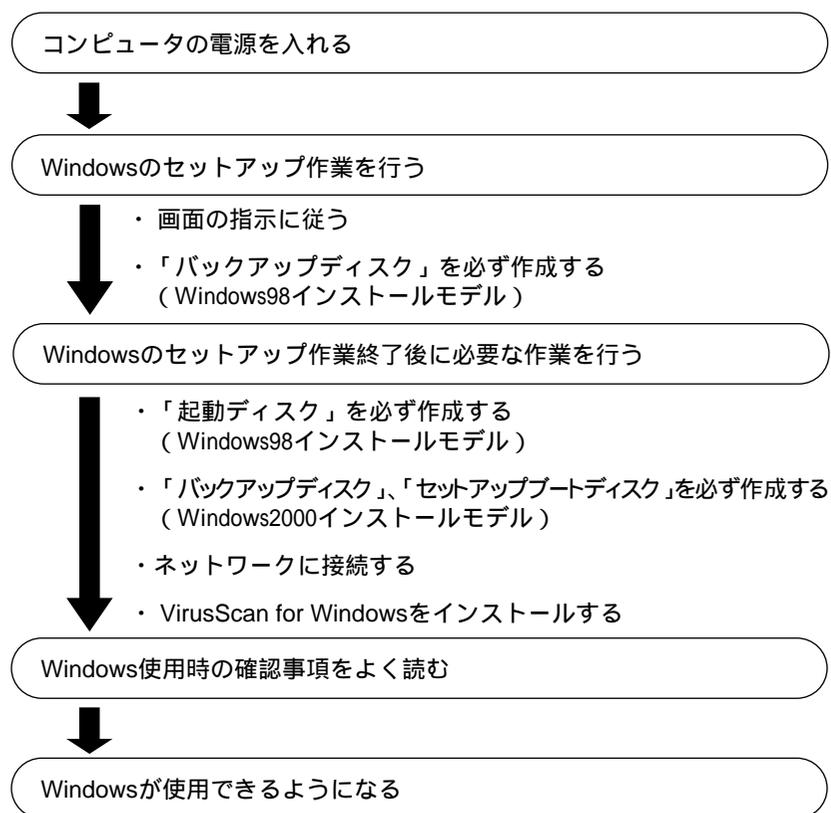
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、コンピュータを購入後に、はじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業の概要とWindowsのセットアップ手順を説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの
セットアップとは

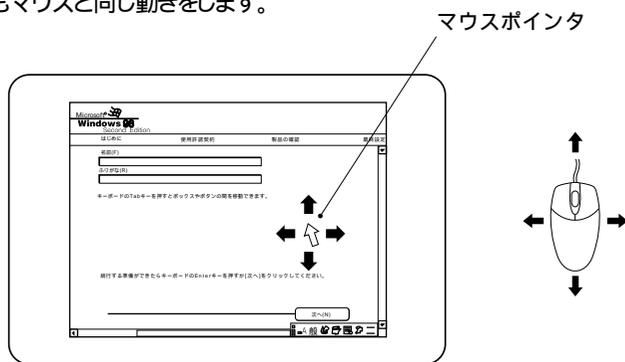
「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにだけ行うプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windowsの画面に表示されているマウスポインタもマウスと同じ動きをします。



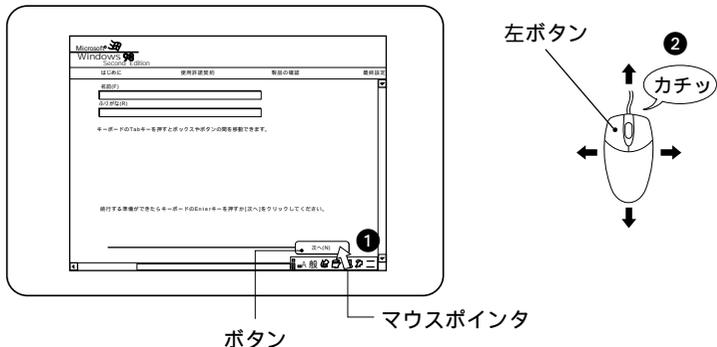
ボタンをクリックする

① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。

② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

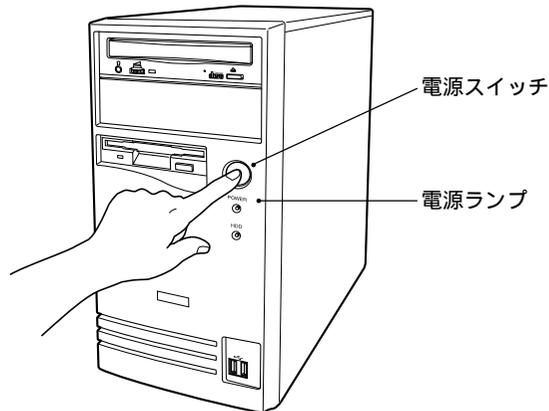
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本機の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。
電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。



- 3 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
続けてWindowsのセットアップを行います。

Windows98インストールモデル  p.20

Windows2000インストールモデル  p.22

電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、次の事項を確認してください。

電源ランプが点灯しない場合

電源コードが正しく接続されているか確認してください。

画面に何も表示されない場合

ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

Windowsのセットアップ

Windows 98 インストール モデル

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ようこそ

↓ 日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

情報の収集

↓ ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

モデムの接続

↓ FAXモデムカードを装着している場合に、この画面が表示されま
す。ここでは接続を行いませんので [スキップ] します。

使用許諾契約への同意

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止さ
れます。

インストールの完了

↓ Windowsが正常にインストールされました。[完了] をクリックし、
セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定

↓ 「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設
定します。

お知らせの確認



本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。

バックアップディスクの作成

「作成するディスクセットの選択」画面に表示されたディスク名のバックアップディスクを作成します。

 p. 24「バックアップディスクの作成」



- 2 Windows 98 セットアップが終了すると、Windows 98 のデスクトップが表示されます。



続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows2000
インストール
モデル

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了] をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

- 2 Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これでWindows 2000セットアップは終了です。



続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成



制限

バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ドライバやソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。「バックアップFDディスク作成ユーティリティ」では、購入時にHDDにインストールされていても、「ドライバCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成します。

本機のユーザーズマニュアルのPDFファイル

添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版

添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。バックアップFD作成ユーティリティ画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

バックアップ ディスクの作成

起動方法

次の方法で、バックアップFD作成ユーティリティを起動します。

Windows98 インストールモデルの場合

Windowsセットアップ時に「バックアップFD作成ユーティリティ」が自動的に起動します。

Windowsのセットアップ中に作成しない場合は、[キャンセル]をクリックします。セットアップの後に作成するときには、[スタート] - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

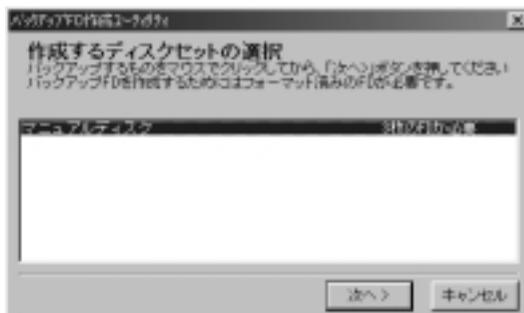
Windows2000 インストールモデルの場合

[スタート] - 「プログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

作成方法

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。



- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。
- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。
作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。

 p.44 「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

Windows 98 起動ディスクの作成(Windows 98のみ)

Windows98起動ディスクは、次のような場合に使用します。

MS-DOS領域をフォーマットする場合

WindowsがHDDから起動しなくなった場合

HDDの領域変更をする場合



制限

Windows98起動ディスクを作成しないと、Windowsの再インストール時に、HDDのフォーマットを行うことができません。必ず作成してください。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意しておきます。

 p.43「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「起動ディスク」タブをクリックします。
- 3 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。
- 4 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
- 5 「Windows 98 起動ディスク 1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.44「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

セットアップブートディスクの作成(Windows2000のみ)

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。

セットアップブートディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを4枚用意してください。

 p.41「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
 CD ¥BOOTDISK (¥ は、スペースを意味します。)
 「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
 - ① 次のとおり入力して  を押します。
C:
 - ② 次のとおり入力して  を押します。
CD ¥ (¥ は、スペースを意味します。)
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら  を押します。
- 5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。

6

画面の指示に従い4枚目まで作成します。

作成したディスクは、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。



p.44「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

VirusScan for Windowsのインストール

購入時には、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。



『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

その他の設定

購入時にFAXモデムカードなどを装着している場合は、使用できるように設定を行います。



各装置に添付のマニュアル

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項の確認を行ってください。

Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意しましょう。

 p. 54「省電力機能」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、マウス、キーボードの操作でもとに戻ります。

 p. 54「省電力機能」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD-ROM」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

Windows98インストールモデルの場合 : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000インストールモデルの場合 : C:\¥I386(Iはアルファベット)

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは、次のように設定されています。

	Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
1台目のHDD	すべての領域 : FAT32	すべての領域 : FAT32
2台目のHDD	すべての領域 : FAT32	すべての領域 : 未設定

2台目のHDDの領域作成(Windows2000のみ)

Windows2000インストールモデルに2台目のHDDを装着している場合、2台目のHDDは、このままでは使用できません。[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」 - 「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDのアクセスランプ点灯中に電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源を切っていてもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にチェックが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
- 3 Windows2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動するときは、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合
 プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。

なお、ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows98 : [スタート]-「Windowsの終了」-「再起動する」を選択

Windows2000 : [スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のとおり対処します。

Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、FDDの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

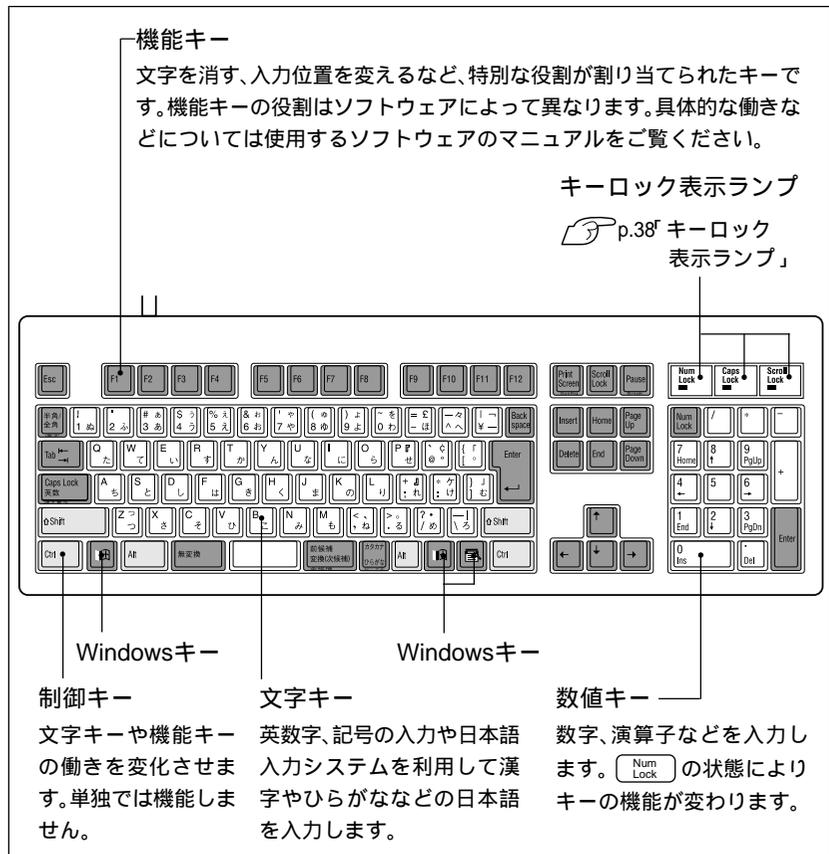
キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、日本語対応109キーボードです。
キーボードの接続方法は、p.14「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

入力キー



キートップに印字された文字と実際に入力される文字が異なる場合もあります。

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップに印字された文字が入力されます。

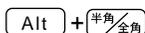
入力モードによって、入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード — ローマ字入力: キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。

— かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。



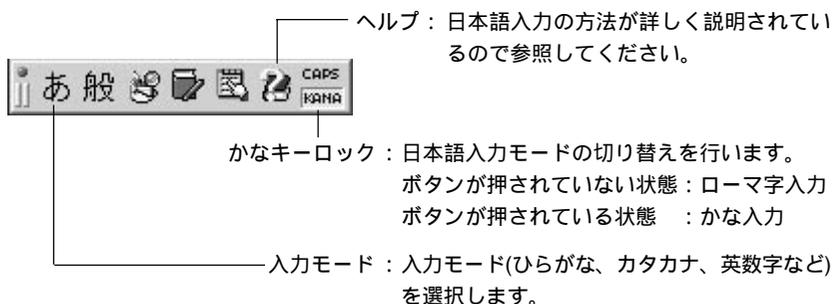
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。

本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルには、次のボタンがあります。ボタンを選択、クリックして、各設定を行います。



MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

記号の入力

インターネットのアドレスやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、直接入力モードで次のキーを押して入力します。

入力記号	入力方法
(コロン)	
(セミコロン)	
(ハイフン)	
(スラッシュ)	
@(アットマーク)	
(チルダ)	
(アンダーバー)	

キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯時 : 数値を入力 消灯時 : カーソルの位置を制御 数値キーの   Home)などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの太文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯時 : 大文字を入力 消灯時 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。

Windowsキー

Windowsキーの種類と機能

Windowsキーには2種類あり、それぞれのキーは次の働きをします。

Windowsキー	機能
	画面左下の「スタート」をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーと組み合わせて使うキー

Windowsキーとほかのキーを組み合わせることで、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機能
 + 	Windowsのヘルプが表示されます。
 + 	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + 	「検索:条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 +  + 	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + 	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
 +  + 	最小化されているウィンドウをすべてもとのサイズに戻します。
 + 	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + 	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

マウスを使う

本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

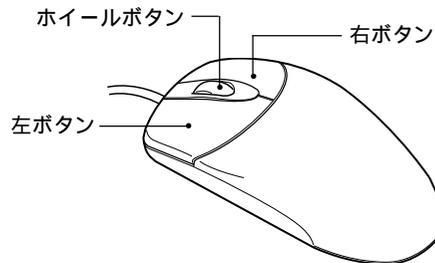
ホイール機能を使用するには、「マウスドライバ」のインストールが必要です。購入時には、「マウスドライバ」がインストールされています。

マウスの操作



制限

アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ: マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、デスクトップ右下にある「マウス」アイコンをダブルクリックし、「マウスのプロパティ」で設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは、次のFDを使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



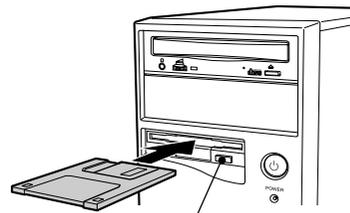
制限

FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

- 1 ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



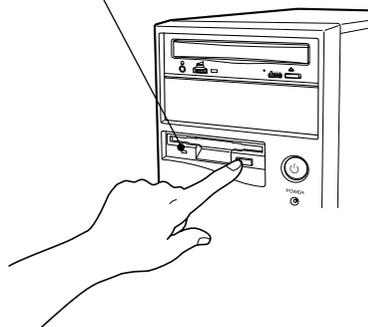
イジェクトボタン

取り出し方法

1

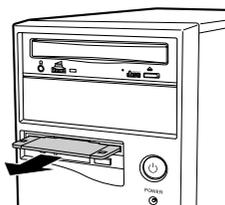
FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

FDDアクセスランプ



2

F D が飛び出しますので、静かに引き抜きます。



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマット方法は、次のとおりです。



制限

Windows2000では、Windowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

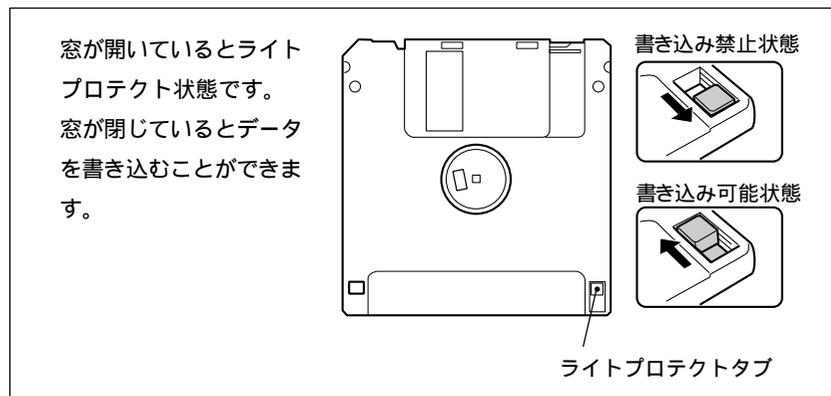
- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は、「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマット結果」または「フォーマットが完了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します(Windows2000以外)。
- 5 「閉じる」をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。

データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくで安心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで操作します。



HDD (ハードディスクドライブ) を使う

本機には、HDDが装着されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- HDDを分解しないでください。
- HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶついたりしてショックを与えると、HDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDD内の重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。専用のバックアップソフトウェアを使用して、複数のファイルを一度にバックアップする。

HDDのフォーマット

HDDを増設、交換するなどして初めて使用する場合には、そのHDDの領域作成とフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。購入時に装着されているHDDにはソフトウェアがインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。

 p.171「HDD領域の変更」

 p.179「MS-DOS領域のフォーマット」



データが登録されているHDDをフォーマットすると、登録されているすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

	Windows98 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
1台目のHDD	すべての領域：FAT32	すべての領域：FAT32
2台目のHDD	すべての領域：FAT32	すべての領域：未設定

Windows2000
インストールモデル
のHDD構成

Windows2000インストールモデルに2台目のHDDを装着している場合、2台目のHDDは、このままでは使用できません。[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」-「ディスクの管理」を使用して、領域作成とフォーマットを行ってください。

 「Windowsのヘルプ」

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかにも、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

CD-ROMメディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが故障ではありません。

CD-ROMのセットと取り出し

機種によりCD-ROMドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



制限

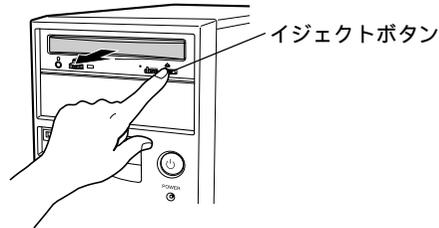
CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

セット方法

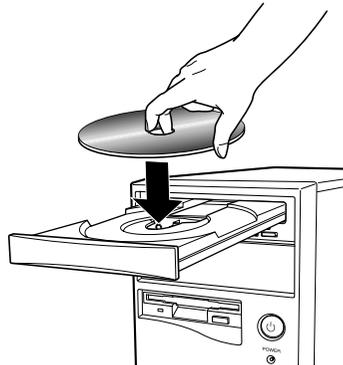
1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2

印刷面を上にしてCD-ROMをディスクトレイのくぼみの上に載せます。

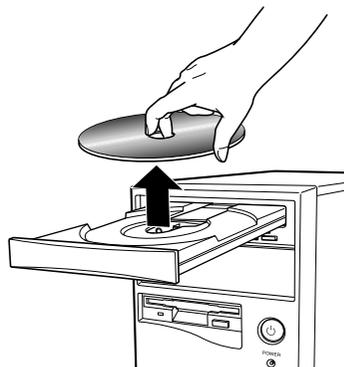


3

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

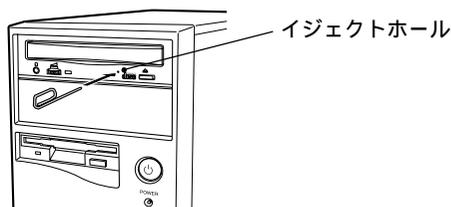
- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。
CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合。
CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合。

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。
 p.31「電源の切り方」
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

光磁気ディスクドライブを使う

(光磁気ディスクドライブ搭載モデルのみ)

光磁気ディスクドライブ(以降、MOドライブ)は、3.5型光磁気ディスク(以降、MO)の読み書きを行う装置です。MOは、FDのように携帯性にも優れており、画像ファイルなど大容量データやプログラムの登録、HDDのバックアップなどに利用します。本章とあわせてMOドライブに添付のマニュアルも、ご覧ください。

MOのセットと取り出し

機種によりMOドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



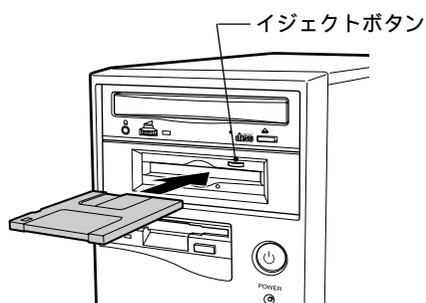
制限

イジェクトボタン(アクセスランプ)点灯中にMOを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合は、必ずMOを取り出してください。

セット方法

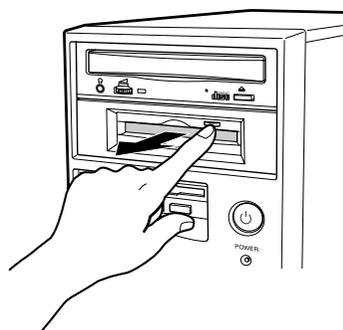
- 1 MOの文字が印刷されているシャッタ面を上にして、MOドライブに「カチッ」と音がするまで静かに押し込みます。



- 2 イジェクトボタンが点滅し、消灯すればMOのセットは完了です。

取り出し方法

- 1 イジェクトボタンが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 MOが少し飛び出しますので、まっすぐに引き抜きます。

MOのフォーマット

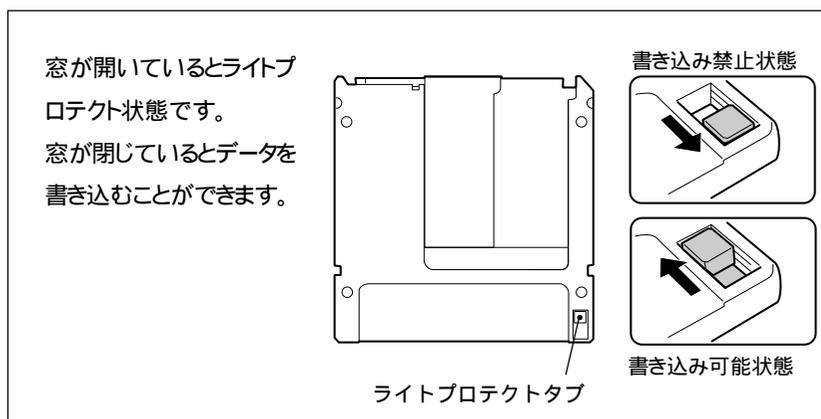
フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいMOを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。



MOをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトしたMOには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したMOは、ライトプロテクトしておく安心です。ライトプロテクトは、MO裏面のライトプロテクトタブで操作します。



強制的なMOの取り出し

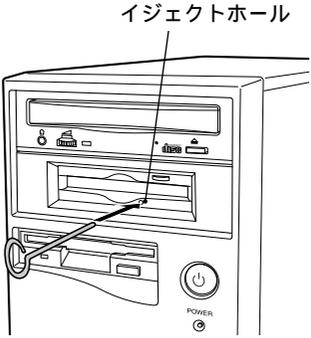
以下のような場合には、強制的にMOを取り出すことができます。

MOドライブが故障して、MOが取り出せない場合。

MOをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合。



イジェクトピンは、小さなお子様の手が届くところには保管しないでください。目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切り、約10秒程度待ちます。
これはMOドライブのモータが停止するのを待つためです。
- 2 添付されているイジェクトピンをイジェクトホールにまっすぐ押し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。
- 3 内部のロックが外れ、MOが少し飛び出します。MOをそのまま、まっすぐに引き抜きます。

解像度や表示色を変更する

本章では、画面の解像度や表示色数の設定方法について説明しています。設定画面に表示されるタブ、機能および本機で表示可能な解像度と表示色数などは、お使いになるビデオカードにより異なります。詳細はビデオカードに添付されているマニュアルをご覧ください。



参考

SafeモードまたはVGAモードでの起動

接続しているディスプレイと異なったディスプレイを選択した場合や、お使いになっているビデオカードでは表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。この場合、次のモードでコンピュータを起動して再設定を行ってください。

Windows98の場合 : Safeモード

Windows2000の場合 : VGAモード

 p.151「ディスプレイの不具合」

解像度や表示色
を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「画面の色」で設定を変更します。



< Windows 2000の場合 >

- 4 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

ディスプレイの
設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブで接続されているディスプレイの設定を行ってください。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



省電力機能の設定は、「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

NetWareサーバを利用している場合や NetBEUI を使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます。

休止状態 (Windows2000のみ)

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。



「スタンバイ」または「休止状態」を実行すると、お使いのシステム構成によっては正常に復帰できないなどの不具合が発生する場合があります。

休止状態を有効にする

Windows2000の場合、休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。
 「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックして、
 「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。



電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態 (Windows2000 のみ)	消 灯
電源切断時	消 灯

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

あらかじめ設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと、省電力モードに移行します。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows98 : 「コントロールパネル」-「電源の管理」アイコン

Windows2000 : 「コントロールパネル」-「電源オプション」アイコン

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各省電力モードに移行します。

Windows2000の場合



制限

Windows98の再インストールを行うと、「電源設定」タブの設定値が変更されます。そのまま使用するとシステム構成によっては正常に復帰できないなどの不具合が発生することがあります。インストール後は次のように設定値を変更することをおすすめします。

- ・「システムスタンバイ」-「20分後」「なし」
- ・「ハードディスクの電源を切る」-「30分後」「なし」

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態を強制的に実行します。

スタートボタンから実行する

Windows98の場合 : [スタート]-「Windowsの終了」から選択実行します。

Windows2000の場合 : [スタート]-「シャットダウン」から選択実行します。

電源ボタンを押して実行する

電源ボタンを押したときに、どのモードに入るかをあらかじめ「詳細」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Windows2000の場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、モニタの電源が切れている状態	緑点灯	マウス、キーボードを操作する。 (誤って電源スイッチを押さないでください。)
スタンバイ	緑点滅	電源スイッチを押す。 マウス、キーボードを操作する。
休止状態 (Windows2000)	消灯	電源スイッチを押す。

そのほかの機能

サウンド機能

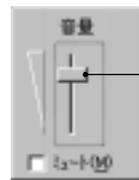
本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。サウンドカードを同時購入された場合は、サウンドカードに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

スピーカを使用する 本機で音を鳴らすにはスピーカを接続する必要があります。本機背面のライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカを接続してください。サウンドカードをお使いの場合は、ライン出力コネクタの位置をサウンドカードに添付のマニュアルで確認してください。

音を鳴らしたり、録音したりするには Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。サウンドユーティリティは、[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。使用方法は、『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』やヘルプをご覧ください。

Windows使用時に音が鳴らない、音が大きすぎるといった場合には、「ボリュームコントロール」で音量を調節します。画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

「スピーカ」アイコン



つまみ

ボリュームコントロール

サウンドカードを使用する 本機では、メインボード上のサウンド機能を使用せずに、サウンドカードを装着して使用することができます。サウンドカードを使用する場合は、メインボード上のサウンド機能を次の方法で無効に設定してください。

「BIOS Setupユーティリティ」-「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configurationサブメニュー画面」にある次の項目を、すべて「Disabled」に設定します。

- ・ Onboard AC97 Audio Controller
- ・ Onboard Game Port
- ・ Onboard MIDI I/O

 p.94「BIOSの設定」

サウンドカードを同時購入された場合は、あらかじめ「Disabled」に設定されています。

ネットワーク機能

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うのに必要となるプロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



制限

NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

パラレルコネクタ

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.105「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが2個用意されています。

シリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.105「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

USBコネクタ

本機にはUSBコネクタが、前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

USBコネクタの抜き差しは、本機の電源が入った状態で行えます。USB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続するUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。購入時には、「VirusScan for Windows」がインストールされていないので、「VirusScan for Windows」をインストールしてください。

 『VirusScan for Windowsをご使用前に』

データファイルの更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付の「ユーティリティCD」に登録されています。

システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

本機には、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。

DIMMソケット

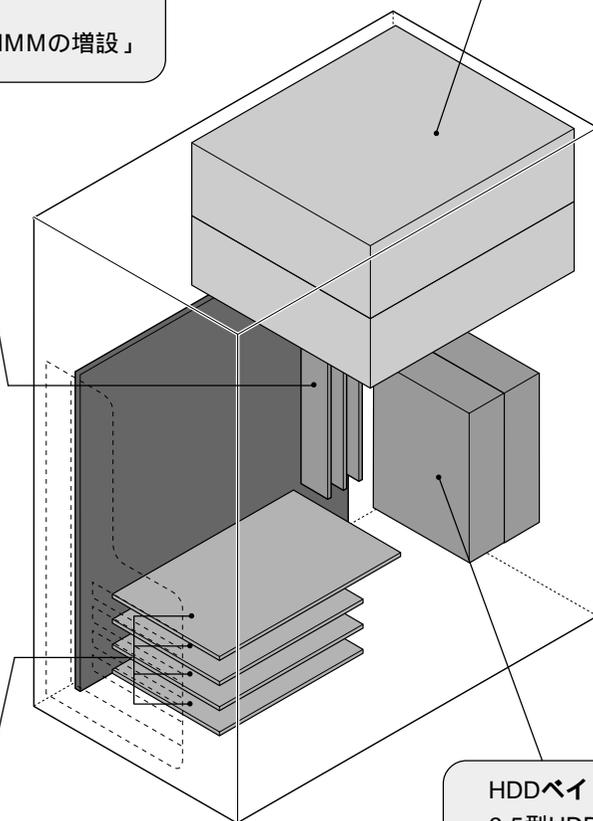
DIMMソケットが3本用意されています。内蔵メモリを1536MBまで Windows98では512MBまで拡張することができます。

 p.70「DIMMの増設」

5.25型ドライブベイ

5.25型の装置(CD-ROMドライブなど)やマウントフレームを取り付けたMOドライブなどを2基まで装着することができます。

 p.79「5.25型ドライブベイへのドライブの装着」



拡張スロット

AGP仕様の拡張カードを1枚、PCI仕様の拡張カードを3枚まで装着できます。

 p.75「拡張カードの装着」

HDDベイ

3.5型HDDを2基まで装着できます。

 p.82「HDDベイへの装着」

作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



DIMMやドライブ装置の増設・交換、拡張カードの装着などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。
コンピュータ内部のケースや基盤には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、下記の作業を必要に応じて行ってください。

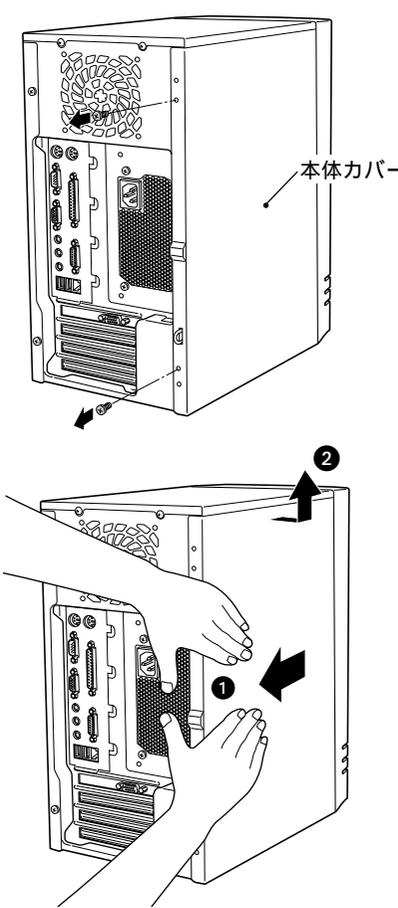


電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、左側の本体カバーを外す必要があります。本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

取り外し

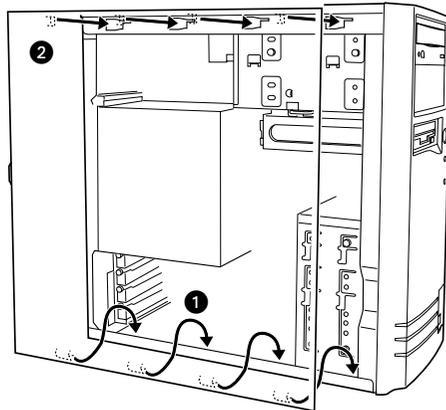
- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
 - 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
 - 3 本体左背面のネジ(2本)を外します。
 - 4 本体カバーを取り外します。
 - ① 本体カバーを本体背面側に引きます。
 - ② 本体カバーを上を引き上げます。
- 

取り付け

1

本体カバーを本体側面に合わせます。

- 1 本体カバーの下側のつめをコンピュータ下側のヘリにはめ込みます。
- 2 本体カバーの上側の突起をコンピュータ上側の切り欠きにはめ込みます。

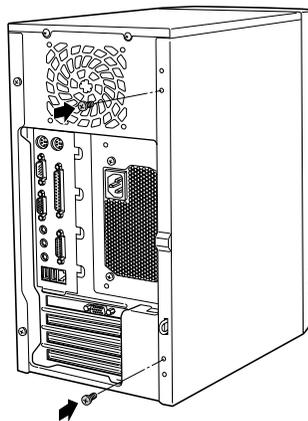


2

本体カバーを前面側にスライドさせます。

3

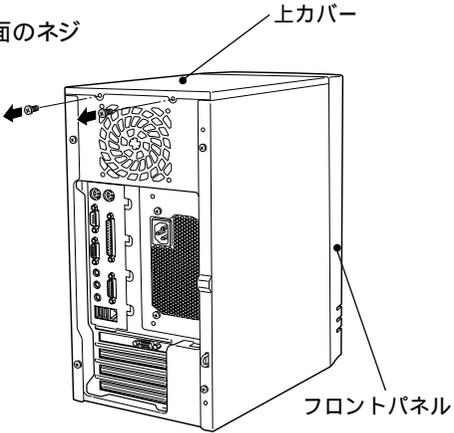
ネジ(2本)で本体カバーを固定します。

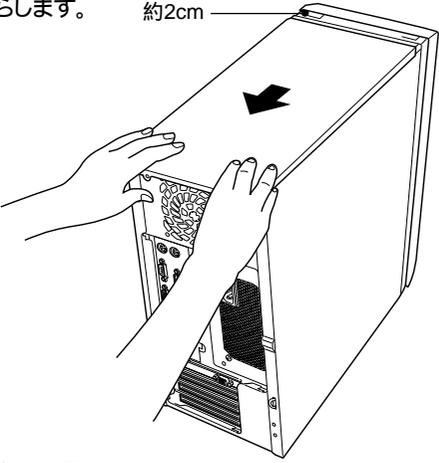


フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。フロントパネルは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

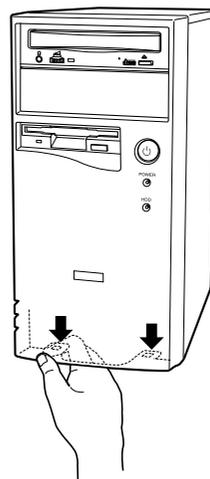
取り外し

- 1 上カバーを固定している本体背面のネジ
(2本)を外します。


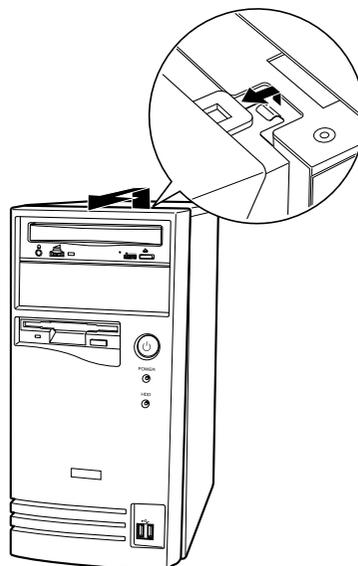
上カバー
フロントパネル
- 2 上カバーを背面側に約2 cmずらします。


約2cm
- 3 本体前面を机から約5 cm突き出して置きます。
フロントパネルの下部から手を入れられるスペースを作ります。
コンピュータのバランスを崩して、机から落とさないように気を付けてください。

- 4 フロントパネル下部の左右のフックを外します。
フロントパネルの内側からフックを押し下げます。



- 5 フロントパネル上部の左右のフックを外します。
上側の片方のフックを少し持ち上げながら手前に引くと外れます。

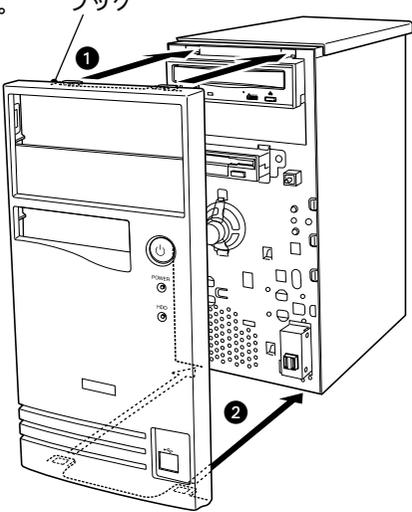


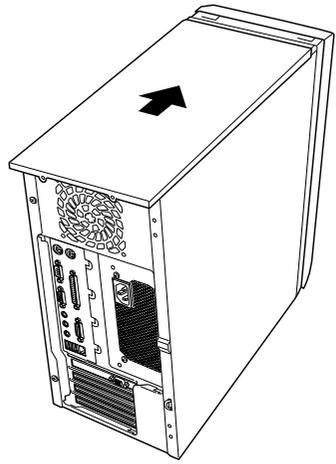
- 6 フロントパネルを本体から外します。

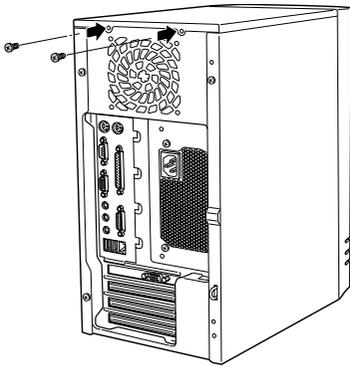
- 7 手順3で移動させた本体を安定した場所に置きます。

取り付け

- 1 フロントパネルを本体にセットします。
上カバーを背面側に約2cmずらした
状態で行います。

 - ① フロントパネル上部のフック
(2個)を本体上部の穴に合
わせませす。
 - ② フロントパネル下部のフック
(2個)を本体底面の切り欠
きに合わせて押し込みませす。
- 2 上カバーを本体前面側へスライドさせませす。


- 3 本体背面のネジ(2本)で本体の上
カバーを固定させませす。

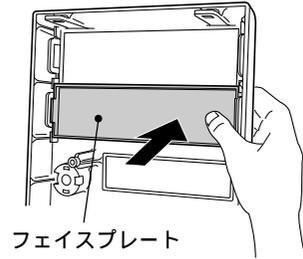


フェイスプレートの取り外し・取り付け

取り外し

5.25型ドライブベイにドライブ装置を取り付けるときは、フェイスプレートを取り外します。

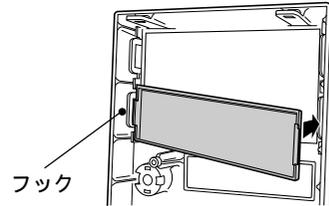
フロントパネルの裏側からフェイスプレートの片側を押し出します。外したフェイスプレートは、大切に保管してください。



取り付け

ドライブ装置を外して何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にほこりが入らないように、フェイスプレートを取り付けます。

フロントパネルの裏側からフェイスプレートの片側をフックに合わせ、もう片側を押し込みます。



DIMMの増設

本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

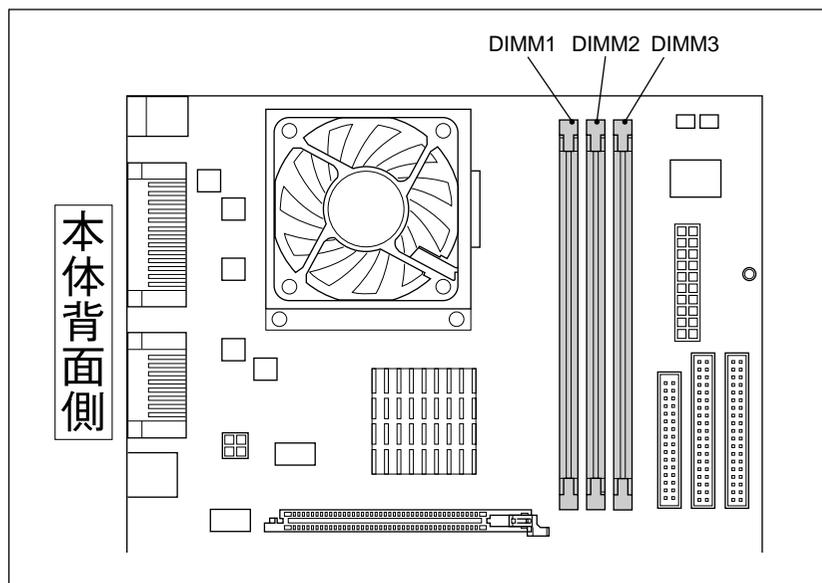
DIMMの仕様

本機には、3つのDIMMソケットが用意されています。DIMMソケットにDIMMを装着することによりメモリ容量を増やすことができます。本機で搭載可能な最大メモリ容量は次のとおりです。

Windows98 : 512MB

Windows2000 : 1536MB(512MB × 3)

DIMMはDIMM3ソケットから取り付けます。購入時には、DIMM3ソケットにあらかじめDIMMが取り付けられています。(メモリ容量は、購入時のシステム構成により異なります。)



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。

168ピンDIMM(Dual Inline Memory Module)

3.3V SDRAM (Unbufferd SynchronousDRAM)

メモリ容量 128MB、256MB、512MB

ECC機能非対応

PC133規格対応

上記仕様と一致するDIMMを弊社のオプションリストより選択してください。

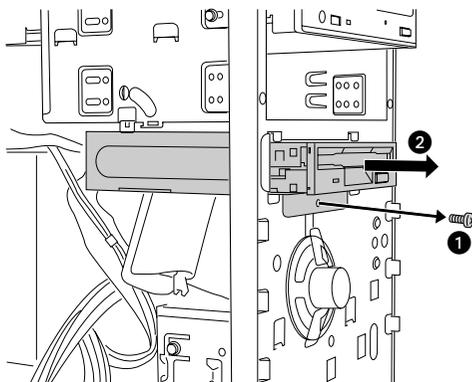
DIMMの取り付け

作業を始める前にp.63「作業時の注意」を必ずお読みください。

DIMMの取り付け作業をする場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

取り付け

- 1 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを外します。
 p.64 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 フロントパネルを取り外します。
 p.66 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 5 FDD を前面にずらします。
 - ① FDD を固定している前面のネジ(1本)を外します。
 - ② FDD を前面側に約 5cm スライドさせます。

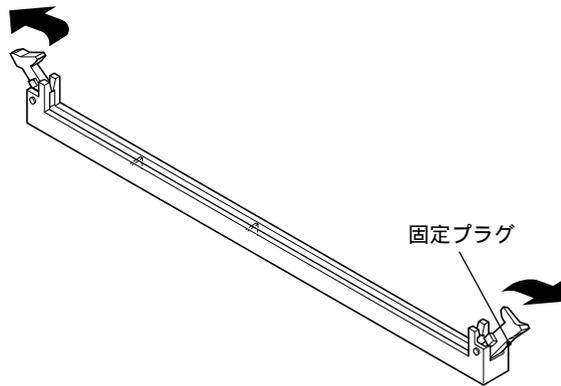


- 6 AGP スロットの AGP カードと、HDD ドライブキャリアを外します。
そのほかの拡張カードが、取り付け作業の妨げになる場合は外します。

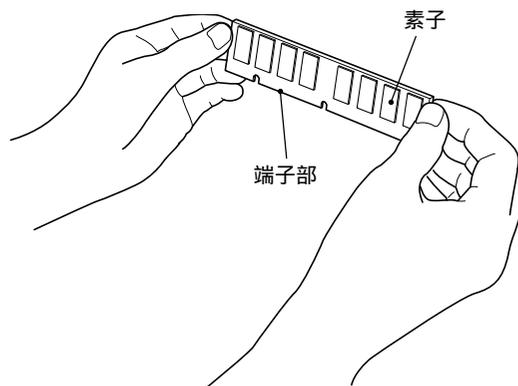
 p.76 「拡張カードの装着」

 p.82 「HDD ベイへの装着」

- 7 DIMMソケットの固定プラグを開きます。



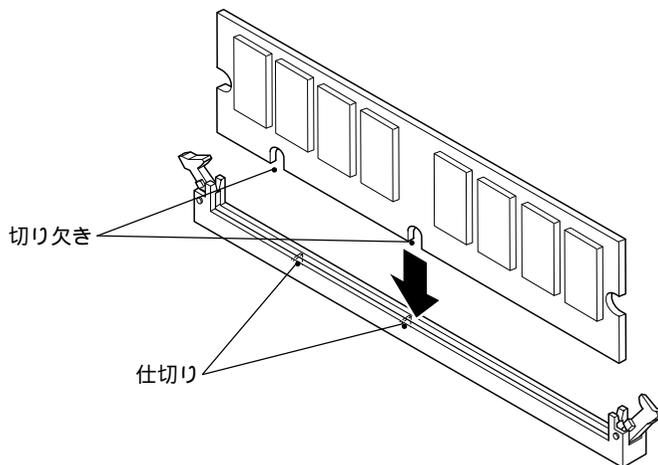
- 8 DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。



9

DIMMソケットにDIMMを差し込みます。

- ① DIMMには2つの切り欠きがあり、これをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。
- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。



10

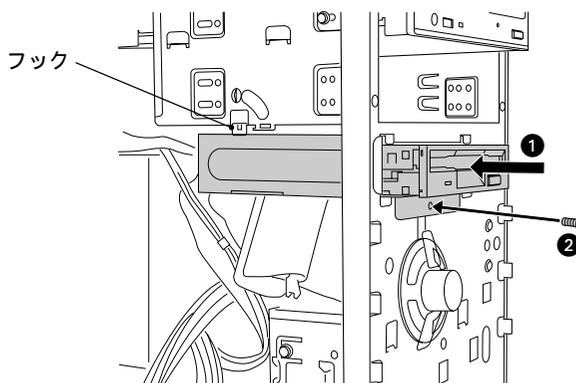
手順6で取り外した拡張カードとHDDドライブキャリアをもとどおりに装着します。

-  p.76 「拡張カードの装着」
-  p.82 「HDD ベイへの装着」

11

FDD をもとの位置に戻します。

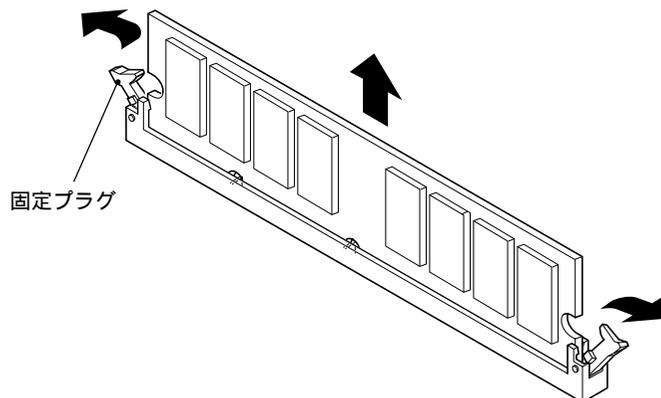
- ① FDD を背面側に押しこみます。
FDDのケーブル類がフックに引っ掛からないよう注意してください。
- ② 前面から FDD をネジ(1本)で固定します。



- 1 2 フロントパネルを取り付けます。
 p.66 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 1 3 本体カバーを取り付けます。
 p.64 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 1 4 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 1 5 メモリ容量を確認します。
- ① コンピュータを起動します。 **Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.95 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 - ② 「Mainメニュー画面」の「Installed Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。
 装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

取り外し

- 1 DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。



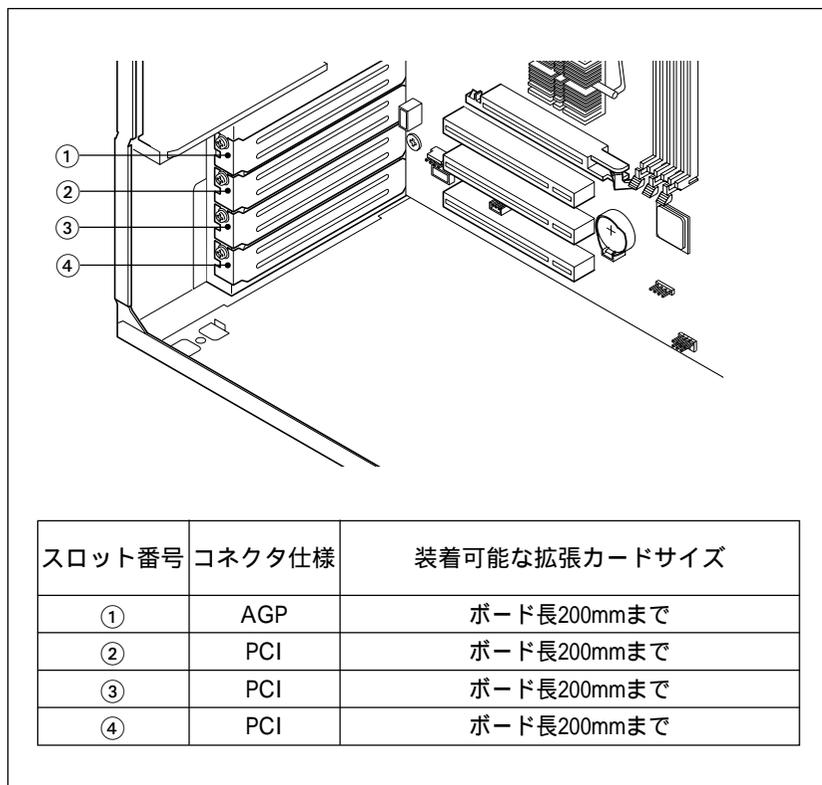
- 2 DIMMが外れたら静かに取り外します。
 静電気防止袋に入れて保管してください。

拡張カードの装着

拡張スロットの仕様と拡張カードを取り付ける方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には、4つの拡張スロットがあります。各スロットの仕様は、次のとおりです。



拡張カードの装着

作業を始める前にp.63「作業時の注意」と拡張カードに添付のマニュアルを必ずお読みください。



参考

拡張カードのコネクタ

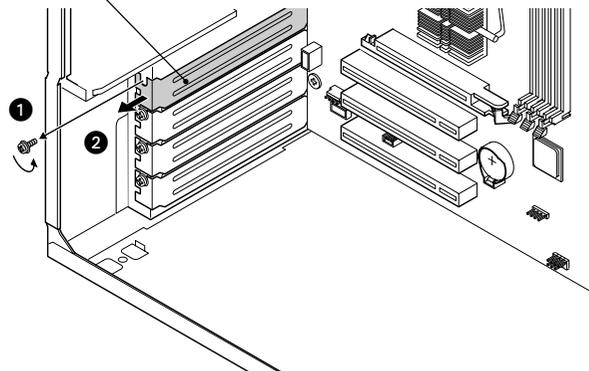
拡張カードによっては、コンピュータ内部のコネクタとの接続が必要な場合があります。

 拡張カードに添付のマニュアル

作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブルを類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 拡張カードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
 - ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
 - ② スロットカバーを手前に引き抜きます。

スロットカバー

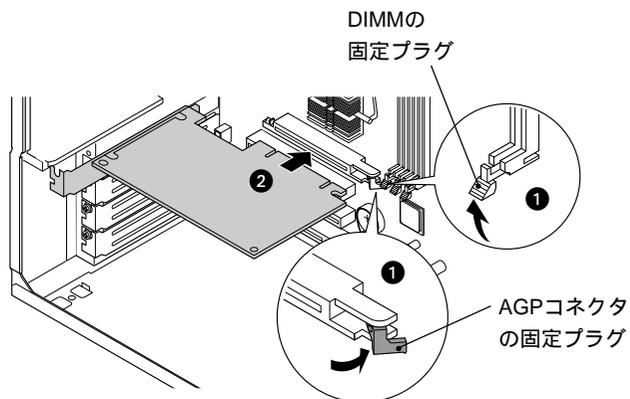


外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張カードを外したあと、別の拡張カードを装着しない場合は、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。

5 拡張カードを差し込みます。

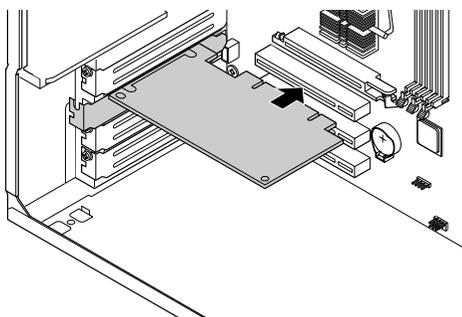
AGPカードの場合

- ① AGPコネクタの固定プラグを倒します。また、DIMMの固定プラグが倒れている場合は、起こします。
- ② AGPカードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。しっかり固定されると固定プラグが起き上がり「カチッ」と音がします。

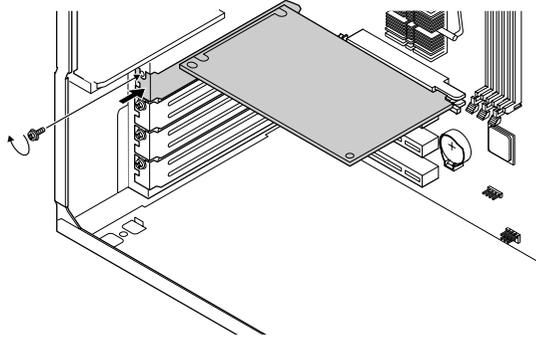


PCIカードの場合

PCIカードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。



- 6 拡張カードをネジで固定します。



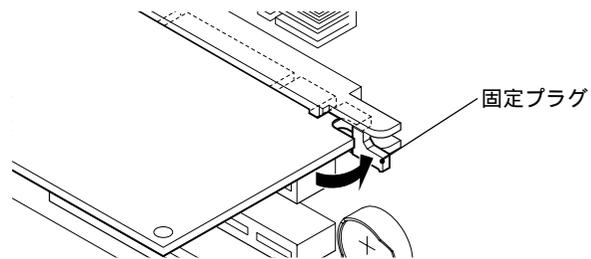
- 7 本体カバーを取り付けます。
☞ p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

- 1 拡張カードを固定しているネジを外します。

- 2 拡張カードを引き抜きます。
AGPカードを取り外す場合は、AGPカードを固定している固定プラグを倒してから引き抜きます。



< AGPカードの場合 >

- 3 拡張カードを取り外したスロットに別の拡張カードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

ドライブベイへのドライブの装着



制限

3.5型ドライブベイのドライブ装置(FDD)は交換できません。ただし、3.5型のMOドライブを5.25型マウントフレームに取り付け、5.25型ドライブベイに装着することができます。

5.25型ドライブベイへの装着

作業を始める前にp.63「作業時の注意」を必ずお読みください。

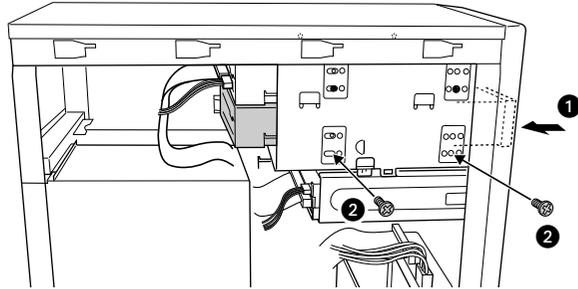
取り付け

ここでは2台目の5.25型ドライブを増設する手順を説明します。

- 1 あらかじめ装着する装置に添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチの設定などを行います。
 p.87「ドライブ装置の装着」
- 2 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4 本体カバーを取り外します。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5 必要に応じてフェイスプレートを取り外します。
すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。
 - ① フロントパネルを取り外します。
 p.66「フロントパネルの取り外し・取り付け」
 - ② フェイスプレートを取り外します。
 p.69「フェイスプレートの取り外し・取り付け」
 - ③ フロントパネルを取り付けます。
 p.66「フロントパネルの取り外し・取り付け」

6 5.25型ドライブベイに装置を取り付けます。

- ① 前面から挿入します。
- ② ネジ穴を合わせてネジ(2本)で固定します。



7 装着したドライブ装置にケーブル類を接続します。

 p.87「ドライブ装置の装着」

8 本体カバーを取り付けます。

 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」

9 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

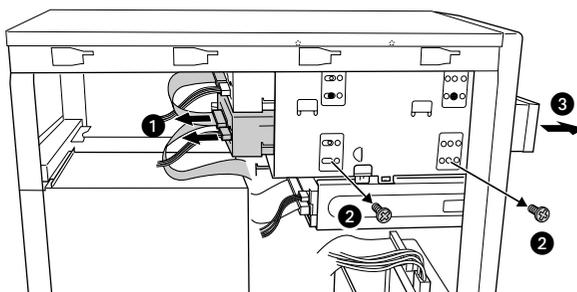
1 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。

2 コンピュータ背面に接続しているケーブルを類をすべて外します。

3 本体カバーを取り外します。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」

4 5.25型ドライブベイから装置を取り外します。

- 1** 取り外すドライブ装置に接続しているケーブル類を外します。
- 2** ドライブ装置を固定しているネジ(2本)を外します。
- 3** ドライブ装置を前面から引き抜きます。



5 必要に応じてフェイスプレートを取り付けます。
装置を取り外したドライブベイにほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。

- 1** フロントパネルを取り外します。
 p.66「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 2** フェイスプレートを取り付けます。
 p.69「フェイスプレートの取り外し・取り付け」
- 3** フロントパネルを取り付けます。
 p.66「フロントパネルの取り外し・取り付け」

- 6 本体カバーを取り付けます。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 7 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

HDDベイへの装着

作業を始める前にp.63「作業時の注意」を必ずお読みください。

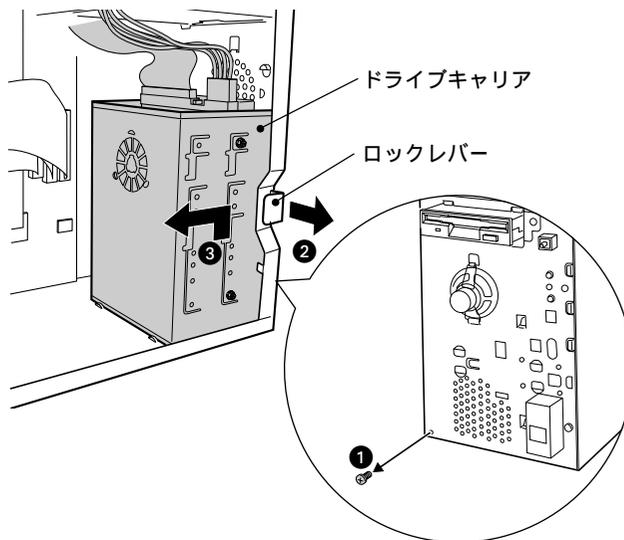
取り付け

ここでは、2台目のHDDを増設する手順を説明します。

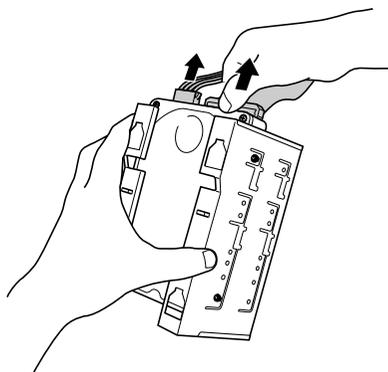
- 1 あらかじめ装着するHDDに添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチやディップスイッチの設定などを行います。
 p.87「ドライブ装置の装着」
- 2 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4 本体カバーを取り外します。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5 必要に応じて拡張カードを取り外します。
ボード長の長い拡張カードは手順7のドライブキャリアの取り外しの妨げになります。
 p.76「拡張カードの装着」
- 6 フロントパネルを取り外します。
 p.66「フロントパネルの取り外し・取り付け」

7 ドライブキャリアを本体から取り外します。

- ① コンピュータ本体とドライブキャリアを固定しているネジ(1本)を外します。
- ② ドライブキャリアを固定しているロックレバーを引きます。
- ③ ドライブキャリアを矢印のとおりにずらして取り外します。

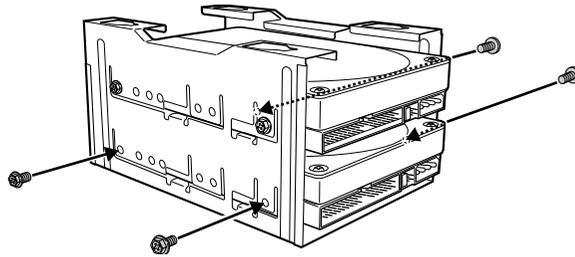


8 ドライブキャリアに装着されているHDDのケーブル類を外します。
片方の手で、ドライブキャリアを持ち、もう一方の手でケーブルを外します。



9 ドライブキャリアにHDDを取り付けます。

- 1 装着されているHDDと同じ向きに合わせ、ドライブキャリアに差し込みます。
- 2 ドライブキャリアとHDDのネジ穴を合わせて、ネジ(4個)で固定します。

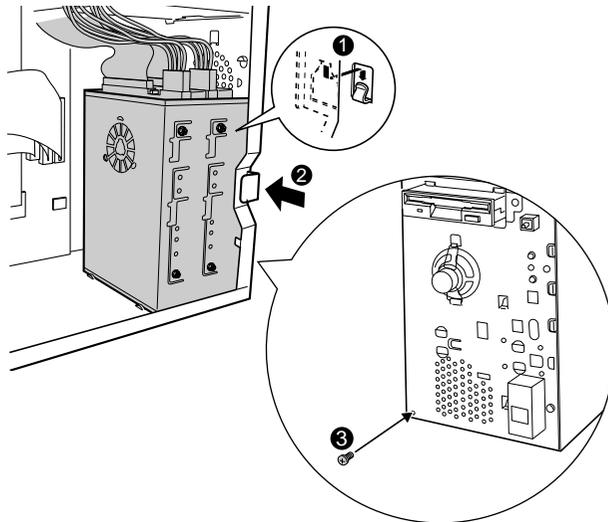


10 HDDにケーブル類を接続します。

 p.87「ドライブ装置の装着」

11 ドライブキャリアを本体に取り付けます。

- 1 本体前面側にある4個のツメに合わせてドライブキャリアの四角い穴を差し込みます。
- 2 ドライブキャリアを固定するロックレバーを押し込みます。
(①でドライブキャリアが4個のツメにきちんと差し込まれていないとロックレバーを押し込むことができません。)
- 3 コンピュータ本体とドライブキャリアをネジ(1本)で固定します。

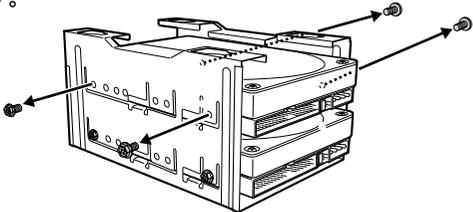


- 12 フロントパネルを取り付けます。
 p.66「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 13 手順5で取り外した拡張カードをもとどおりに装着します。
 p.76「拡張カードの装着」
- 14 本体カバーを取り付けます。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 15 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

ドライブキャリアの取り外し方・取り付け方については、前項「HDDベイへの装着」の手順を参照してください。

ドライブキャリアからHDDを取り外します。
 ドライブキャリアとHDDを固定しているネジ(4本)を外し、ドライブキャリアからHDDを外します。



ドライブ装置の装着

ドライブ装置の種類

コンピュータ内部に取り付けるドライブ装置には、IDE仕様のドライブ装置(以降、IDE装置)とSCSI仕様のドライブ装置(以降、SCSI装置)があります。IDE装置は、本機のメインボード上にあるIDEコネクタにIDEケーブルを介して接続します。SCSI装置を接続する場合は、SCSIカードが必要です。SCSI装置は、拡張スロットに取り付けたSCSIカードにSCSIケーブルを介して接続します。

IDE装置の設定

本機には、HDDやCD-ROMドライブなどのIDE装置を合計4基接続できます。4基の装置には優先順位を設定する必要があります。順位の設定を誤ると、装置がコンピュータに認識されない場合があります。

優先順位は、装置を接続するメインボード側のIDEコネクタ(プライマリ、セカンダリ)と装置側のジャンパ設定(マスタ、スレイベ、ケーブルセレクト)で決定します。

4基の装置の関係は、次のとおりです。

メインボード側	装置	順位	購入時の装置*	増設例
プライマリコネクタ	マスタ	1	HDD	
	スレイベ	2		HDD(2台目)
セカンダリコネクタ	マスタ	3	CD-ROMドライブ	
	スレイベ	4		MOドライブなど

* 購入時のシステム構成により異なります。

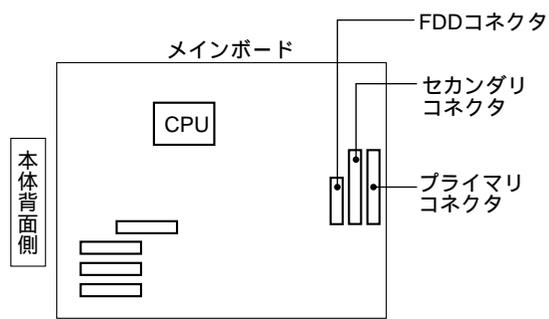


Windowsは、プライマリコネクタにマスタ設定で接続されたHDDにインストールしてください。

HDDは、CD-ROMドライブ(CD-R/RWドライブ、コンボドライブなど)よりも優先順位の高い設定にしてください。HDDが認識されない可能性があります。

プライマリコネクタとセカンダリコネクタは、メインボード上には、IDE装置を接続するIDEコネクタが2つあります。2つのIDEコネクタは、プライマリコネクタとセカンダリコネクタに分けられます。IDEコネクタの優先順位は、次のとおりです。

- 優先順位: 1. プライマリコネクタ
2. セカンダリコネクタ



SCSI装置の設定

SCSI装置には、コンピュータ内部に取り付けるHDDやCD-ROMドライブのほか、外部コネクタに接続するスキャナなどの装置もあります。

SCSI装置の接続を行う前に、次の点を確認してください。

1枚のSCSIカードには、最大で7台(Narrow)または15台(Wide)のSCSI装置を接続することができます。

※ SCSIカードには、WideSCSI(68ピン)とNarrowSCSI(50ピン)の2種類があります。

SCSI装置は、SCSI IDにより識別されます。

SCSIケーブルの両端のSCSI装置には、SCSIターミネータと呼ばれる終端抵抗を付ける必要があります。

※ SCSI装置によっては、あらかじめSCSIターミネータが内蔵されている装置もあります。この場合、SCSIターミネータを装着する必要はありません。

SCSI ID SCSI装置を識別するためにSCSI装置ごとに異なるSCSI IDを設定します。SCSI IDは、SCSI装置上のジャンプスイッチやディップスイッチなどで設定します。

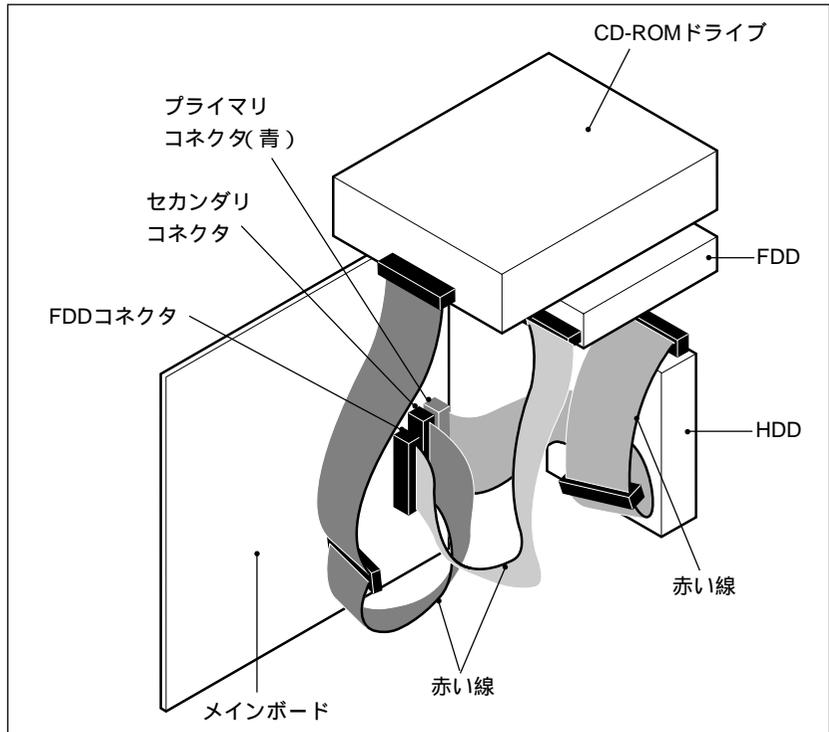
SCSIターミネータ SCSIターミネータは、正常にデータの入出力を行うためにSCSIケーブル両端のSCSI装置に設定する終端抵抗です。
SCSI装置が内蔵されている製品では、コンピュータ内部のSCSIケーブルの両端に接続しているドライブ装置とSCSIカードのターミネータ設定を有効にしています。SCSIカードは、通常自動的にターミネータを有効にしたり無効にする機能を持っています。このためSCSIカードの外部コネクタにSCSI装置を接続すると、自動的にターミネータが無効になります。

SCSI装置の接続、SCSI ID、SCSIターミネータなどの詳細については、SCSI装置やSCSIカードに添付のマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置(IDE装置)の接続例

メインボード
との接続

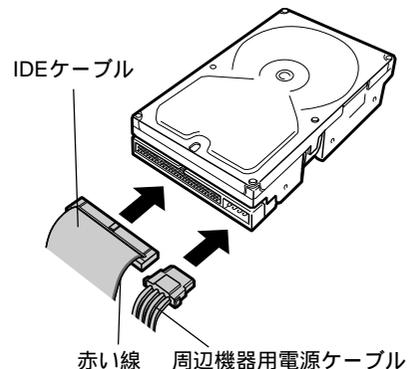
ドライブ装置の一般的なケーブル接続の方法は、次のとおりです。
ドライブ装置を増設または交換する際には、ドライブ装置に添付のマニュアル
もあわせてご覧ください。



HDDの接続例

HDDの場合、次のように接続します。

- 1 IDEケーブルを接続します。
IDEケーブル(プライマリコネクタ側)をHDDのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 周辺機器用電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。



CD-ROM
ドライブの接続例

CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RWドライブなどの場合、次のように接続します。

1 IDEケーブルを接続します。
IDEケーブル(セカンダリコネクタ側)を、ドライブ装置のインタフェースコネクタに接続します。

2 CDオーディオケーブルを接続します。
CDオーディオケーブルは、メインボード上のCD-1コネクタに接続します。(サウンドカードが装着されている場合は、サウンドカードのコネクタに接続します。)

3 周辺機器用電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。

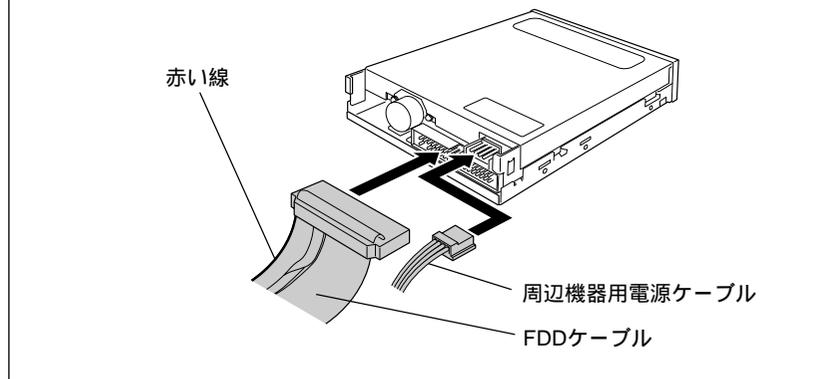
CDオーディオケーブル
IDEケーブル
周辺機器用電源ケーブル
赤い線

p.180「コンピュータ内部のケーブル接続」

3.5型FDD の接続

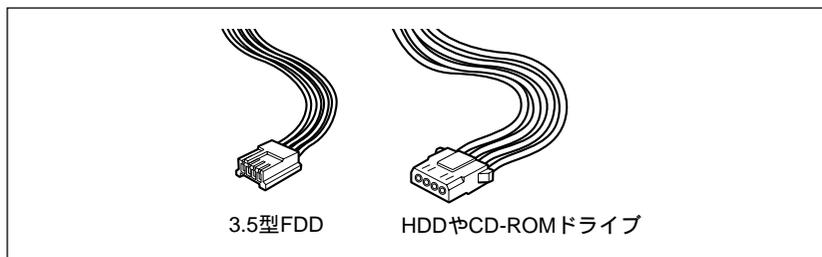
3.5型FDDは、次のように接続します。

- 1 FDDケーブルをFDDのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
電源コネクタの位置は、機種によって異なります。



周辺機器用 電源ケーブル

電源ユニットからは、ドライブ装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルが出ています。周辺機器用電源ケーブルには、大小2種類の電源コネクタがあります。一般的に大きいコネクタは、HDDやCD-ROMドライブなどに、小さいコネクタは3.5型FDDに使用します。



BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.166「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.109「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）を実行してください。

 p.98「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

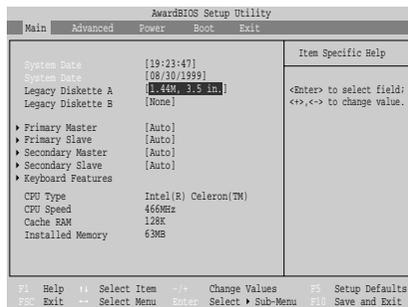
BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。
- 2 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの **Delete** を押します。

Press to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **Delete** を押さないとWindowsが起動します。



- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入れたとき、次のメッセージが表示されることがあります。

「Press F1 to continue, DEL to enter SETUP」

このメッセージが表示されたら **Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。



p.99 「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

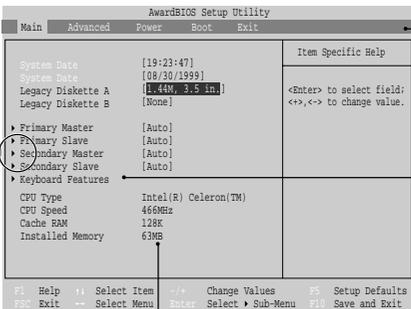
「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択
- ② 「設定項目」を選択
- ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.100をご覧ください。

<メニュー画面>



① 処理メニューを選択

→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 設定項目を選択

↑ ↓ で変更します。

③ 設定値を選択

黒字表示されていると、設定変更可能です。

+ / - を押すと値が変わります。

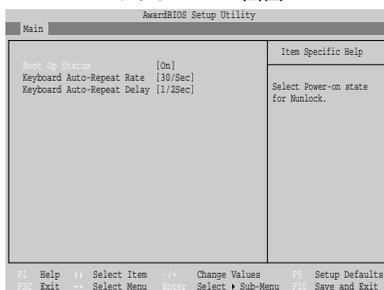
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

<選択ウィンドウ>

選択ウィンドウ内の設定値を ↑ ↓ で変更し、← で設定します。

▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。

Esc を押すと<メニュー画面>に戻ります。

キー操作

キー	操作できる内容
F1 , Alt + H	ヘルプを表示します。
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ・「EXIT」画面を表示します。 ・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
↑ , ↓	設定を変更する項目を選択します。
← , →	処理メニューを選択します。
- , +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。
Page Up , Home	画面の中の最初の項目に移動します。
Page Down , End	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup
Defaults
(初期値に戻す)

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

- 1 **F5** を押す、または「Exitメニュー画面」-「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

サウンドカードを使用している場合

Load Setup Defaults(初期値に戻す)を実行したあとに、次の項目を必ず「Disabled」に設定し直してください。

「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

- Onboard AC97 Audio Controller
- Onboard Game Port
- Onboard MIDI I/O

Discard
Changes
(前回保存した
設定値に戻す)

変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exitメニュー画面」-「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2とおりの方法があります。

Exit Saving
Changes
(変更した内容を
保存し、終了する。)

1

F10 を押す、または「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存して終了する場合は **Yes** を選択し、**←** を押します。

Exit Discarding
Changes
(変更した内容を
破棄し、終了する。)

1

「Exitメニュー画面」-「Exit Discarding Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存せずに終了する場合は **Yes** を選択し、**←** を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面 : 日付、時間、FDD、HDDやパスワードなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : 省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態の設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

Mainメニュー画面

■ は初期値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。 None : FDD未接続 1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD

Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) 表示される詳細 項目は、選択する ドライブにより 異なります。		IDE装置の仕様を設定します。
	Type	IDE装置の仕様を設定します。通常は「 Auto 」を指定します。「 Auto 」で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には「 User Type HDD 」などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD :以降のHDDに関する仕様を個別に設定することができます。 CD-ROM : CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 Normal :容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 LBA :容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE :容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual :「 Cylinders 」、「 Head 」、「 Sector 」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数 (1シリンダ当たり) を設定します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。 Disabled :複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors :転送セクタを設定します。 Maximum :HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期値「 Disabled 」のまま使用します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4/ 5 : 転送モードを設定します。 Disabled :使用しません。
Keyboard Features		キーボードに関する設定を行います。
	Boot Up NumLock Status (起動時の NumLock の設定)	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。

Supervisor Password User Password	コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。初期値は「Disabled」です。下記「Passwordの設定」
Halt On (エラーチェックの設定)	システム起動時にチェックするエラーの種類を選択します。指定したエラーが発生するとシステムは起動を停止します。 All Errors : すべてのエラーチェックを行います。 No Error : エラーチェックを行いません。 All but Keyboard : キーボード関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk : FDD関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk/Keyboard : キーボード/FDD関連以外のエラーチェックを行います。
*Installed Memory	メモリ容量を自動的に表示します。

Passwordの設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができなくなります。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があり、「Mainメニュー画面」の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ 起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1 変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2 のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1 変更可能)	×
	User Password	Disabled	×	×
3	Supervisor Password	Disabled	×	×
	User Password	Enabled	○ (全項目*1 変更可能)	○

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。

*2: 次の項目を指します。

「Mainメニュー画面」- 「System Time」, 「System Date」, 「User Password」

「Exitメニュー画面」- 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」

パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
 「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。
 同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。

Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変わります。



制限

登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き移して保管しておくことをおすすめします。

万一、パスワードを忘れた場合は、p.169「CMOS RAMの初期化」を実行します。ただし、CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がすべてクリアされます。

パスワードの削除

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*CPU Speed (CPUのクロック)	コンピュータに搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
*CPU/PCI Frequency (MHz) (システム、PCIスロットのクロック)	コンピュータに搭載されているシステム、PCIスロットの周波数を自動的に表示します。
CPU Level 1 Cache (1次キャッシュメモリの設定)	CPUの1次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache (2次キャッシュメモリの設定)	CPUの2次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
PS/2 Mouse Function Control (PS/2マウスの設定)	PS/2マウスを使用するかどうかを設定します。「Enabled」に設定すると、IRQ12が常にPS/2マウス用に確保されます。 Enabled : PS/2マウスを使用します。 Auto : 自動的に設定します。

Chip Configurationサブメニュー画面

Graphics Aperture Size (ディスプレイ機能の設定)	初期値 64MB のまま使用します。
---	--------------------

I/O Device Configurationサブメニュー画面

Floppy Disk Access Control (FDのアクセス設定)	FDのアクセス方法を設定します。この設定はBIOSを使用しないFormatコマンドなどでは機能しません。 R/W : 読み込み/書き込み可能 Read Only : 読み込みのみ可能
Onboard Serial Port 1/2 (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10 Disabled : シリアルポートを使用しません。
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します ECP+EPP : EPP+ECP モードに設定します。
ECP DMA Select (パラレルポートのDMA設定)	パラレルポートの DMA チャンネルを設定します。動作モードに Normal、EPP を選択した場合は、表示されません。 1 : DMA チャンネル 1 を使用します。 3 : DMA チャンネル 3 を使用します。
Onboard AC97 Audio Controller (オーディオ機器の設定)	メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。サウンドカード使用時は、[Disabled]に設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Onboard Game Port (ゲームポートの設定)	メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。サウンドカード使用時は、[Disabled]に設定します。 Disabled : 使用しません。 200H - 20FH 210H - 21FH : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI I/O (MIDIの設定)	メインボードの MIDI で使用するアドレスを設定します。サウンドカード使用時は、[Disabled]に設定します。 Disabled : 使用しません。 330H - 331H 300H - 301H : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI IRQ (MIDI IRQ信号の設定)	メインボードの MIDI で使用する IRQ 信号を設定します。 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15

PCI Configurationサブメニュー画面

Slot x IRQ (PCIスロットのIRQ設定) x=1 2 3	PCIスロットごとで使用する割り込み(IRQ)を設定します。 Auto : 自動設定します。 NA : 使用しません。 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15 : IRQ3/4/5/7/9/10/11/12/14/15を使用します。
USB Function (USB機能の設定)	USB機能の有効/無効を設定します。 Disabled : USB機能を無効にします。 Both : USB機能を有効にします。
Primary VGA BIOS (ビデオカードの優先順位の設定)	初期値[AGP VGA Card]のまま使用します。
Onboard PCI Devices Control	メインボード上の機能に関する設定をします。
Onboard LAN	ネットワーク機能の有効/無効を設定します。 Disabled : ネットワーク機能を無効にします。 Enabled : ネットワーク機能を有効にします。

Power メニュー画面



省電力に関する設定は、Windowsでの設定が優先されます。

Windowsでの省電力に関する設定は、p.54「省電力機能」をご覧ください。

「Powerメニュー画面」の省電力に関する設定は、初期値のまま使用することをおすすめします。

Power Management (省電力機能の設定)	省電力モードに移行する時間を設定します。 Max Saving : 省電力モードを有効にします。Min Savingと比べて省電力モードへの移行時間が短くなります。 Min Saving : 省電力モードを有効にします。Max Savingと比べて省電力モードへの移行時間が長くなります。 Disabled : 省電力モードを無効にします。 User Define : 省電力モードへの移行時間を設定します。移行時間は「Suspend Mode」で設定します。
Video Off Option (ビデオ信号の設定)	ビデオ信号を停止するタイミングを選択します。 Suspend->Off : 省電力モード時に停止します。 Always On : ビデオ信号を停止しません。
Video Off Method (ビデオ信号の設定)	ビデオ信号を停止する方法を選択します。 V/H SYNC+Blank : 垂直/水平同期信号を停止し、ビデオ信号をブランク信号にします。 DPMS Standby / DPMS Suspend / DPMS OFF : DPMSに従ってビデオ信号を停止します。 Blank Screen : ビデオ信号をブランク信号にします。DPMSなどの省電力機能に対応していないディスプレイを使用する場合に選択します。

HDD Power Down (HDDモータの停止時間の設定)	HDDのモータを停止する時間を設定します。内蔵IDE HDDのみ有効です。SCSI HDDには機能しません。 Disabled : HDDを停止しません。 1 ~ 15 Min : 1分から15分を選択します。
Suspend Mode (省電力モードの設定)	省電力モードに移行する時間を設定します。 Disabled : 省電力モードに移行しません。 1Min ~ 1Hour : 1分から1時間を選択します。
PWR Button < 4 Secs (電源OFFの設定)	電源OFFのタイミングを設定します。 Soft Off : 4秒以下電源スイッチを押すと、電源OFFになります。 Suspend : 4秒以下電源スイッチを押すと、サスペンドモードになります。
Power Up Control(起動方法の設定)	起動する方法や条件を設定します。
Power Up on PCI Card (LANからの起動設定)	電源切断時にオンボードのネットワーク機能より、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。ただし、分電盤やOAタップなどにより、本機の電源供給をいったん切断して再度供給した場合は、無効となります。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
Automatic Power Up (自動電源投入の起動設定)	設定した日付と時間に応じて、自動的に起動します。 Disabled : 設定しません。 Everyday : 設定した時間に、毎日起動します。 By Date : 設定した日付と時間に、起動します。

Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、コンピュータ起動時の動作設定や起動するドライブの順番を設定することができます。

「Boot Sequence」では起動するドライブの順番を設定します。初期設定は、
[1.Removable Device][2. IDE Hard Drive][3.ATAPI CD-ROM][4.Other Boot Device]です。

ドライブを選択して **+** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **-** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Boot Sequence	1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled /Legacy Floppy
	2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続しているHDDの型番
	3. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続しているCD-ROMドライブの型番
	4. Other Boot Device	SCSI装置から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled /SCSI Boot Device
Plug & Play O/S (Plug & Play対応OSの設定)		初期値 [No]のまま使用します。
Boot Virus Detection (ウィルスチェックの設定)		ブートセクタに感染するウィルスをチェックします。 Disabled : チェックしません。 Enabled : チェックします。
Quick Power On Self Test (POSTの設定)		システム起動時のPower On Self Test(POST)の実行回数を選択します。 Disabled : 複数回実行します。 Enabled : 1回だけ実行します。起動時間を短くすることができます。
Boot Up Floppy Seek (シークの設定)		起動時にFDDのシーク動作を行うかを選択します。 Disabled : シーク動作を行いません。 Enabled : シーク動作を行います。
Interrupt Mode (割り込みモードの設定)		初期値 [PIC]のまま使用します。

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくると便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A	None	1.44M, 3.5 in	None	1.44M, 3.5 in
Primary	Master	Slave	Master	Slave
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				

項目		購入時の設定		変更内容	
Secondary		Master	Slave	Master	Slave
Type					
Translation Method					
Cylinders					
Head					
Sector					
Multi-Sector Transfers					
PIO Mode					
ULTRA DMA Mode					
Keyboard Features	Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On
Halt On		All Errors All but Disk	No Error All but Disk/Keyboard	All Errors All but Disk	All but Keyboard All but Disk/Keyboard

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
CPU Level 1 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
PS/2 Mouse Function Control	Enabled	Auto	Enabled	Auto

I/O Device Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容					
Floppy Disk Access Control	R/W	Read Only			R/W	Read Only				
Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4	2E8H/IRQ10 Disabled	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4	2E8H/IRQ10 Disabled		
Onboard Serial Port 2	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4	2E8H/IRQ10 Disabled	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4	2E8H/IRQ10 Disabled		
Onboard Parallel Port	Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5		Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5			
Parallel Port Mode	Normal	EPP	ECP	ECP+EPP	Normal	EPP	ECP	ECP+EPP		
ECP DMA Select	1		3		1		3			
Onboard AC97 Audio Controller	Disabled		Auto		Disabled		Auto			
Onboard Game Port	Disabled	200H-20FH	210H-21FH		Disabled	200H-20FH	210H-21FH			
Onboard MIDI I/O	Disabled	330H-331H	300H-301H		Disabled	330H-331H	300H-301H			
Onboard MIDI IRQ	3	4	5	7	9	10	11	12	14	15

PCI Configuration サブメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Slot 1 IRQ		Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15
Slot 2 IRQ		Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15
Slot 3 IRQ		Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	Auto	NA 3/4/5/7/9/10/11/12/14/15
USB Function		Disabled	Both	Disabled	Both
Onboard PCI Device Control	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Power Management		Max Saving Disabled	Min Saving User Define	Max Saving Disabled	Min Saving User Define
Video Off Option		Suspend->Off	Always On	Suspend->Off	Always On
Video Off Method		V/H SYNC+Blank DPMS OFF	DPMS Standby DPMS Suspend Blank Screen	V/H SYNC+Blank DPMS OFF	DPMS Standby DPMS Suspend Blank Screen
HDD Power Down		Disabled	()Min	Disabled	()Min
Suspend Mode		Disabled	()Min/Hour	Disabled	()Min/Hour
PWR Button < 4 Secs		Soft Off	Suspend	Soft Off	Suspend
Power Up Control	Power Upon PCI Card	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Automatic Power Up	Disabled	Everyday By Date	Disabled	Everyday By Date

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Sequence	() Removable Device	Disabled	LegacyFloppy	Disabled	LegacyFloppy
	() IDE Hard Drive	Disabled	()	Disabled	()
	() ATAPI CD-ROM	Disabled	()	Disabled	()
	() Other Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device
Boot Virus Detection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Quick Power On Self Test		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Boot Up Floppy Seek		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled



ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

Windows 98のインストール

Windows98 やデバイスドライバなどのインストール方法を説明します。

インストールの準備

再インストールが Windows98の再インストールが必要なのは、次の場合です。

必要な場合

何らかの原因でWindows98が起動しなくなった場合

HDD領域の構成を変更した場合  p.171「HDD領域の変更」

必要なメディア

ソフトウェアをインストールするには、次のFDとCD-ROMが必要です。

Windows98起動ディスク

FDISKコマンドやFORMATコマンドなどが登録されているディスクです。

リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク

Windows98のインストール時に使用します。

リカバリCD-ROM

Windows98が登録されているCD-ROMです。

ドライバCD

各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。

ビデオドライバディスク(ビデオカードによって名称が異なります。)

お使いのビデオカード専用のディスプレイドライバが登録されているディスクです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD

VirusScan for WindowsとAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD

Windowsのセットアップ時に作成したFDです。作成していない場合は、HDDをフォーマットする前に必ず作成してください。

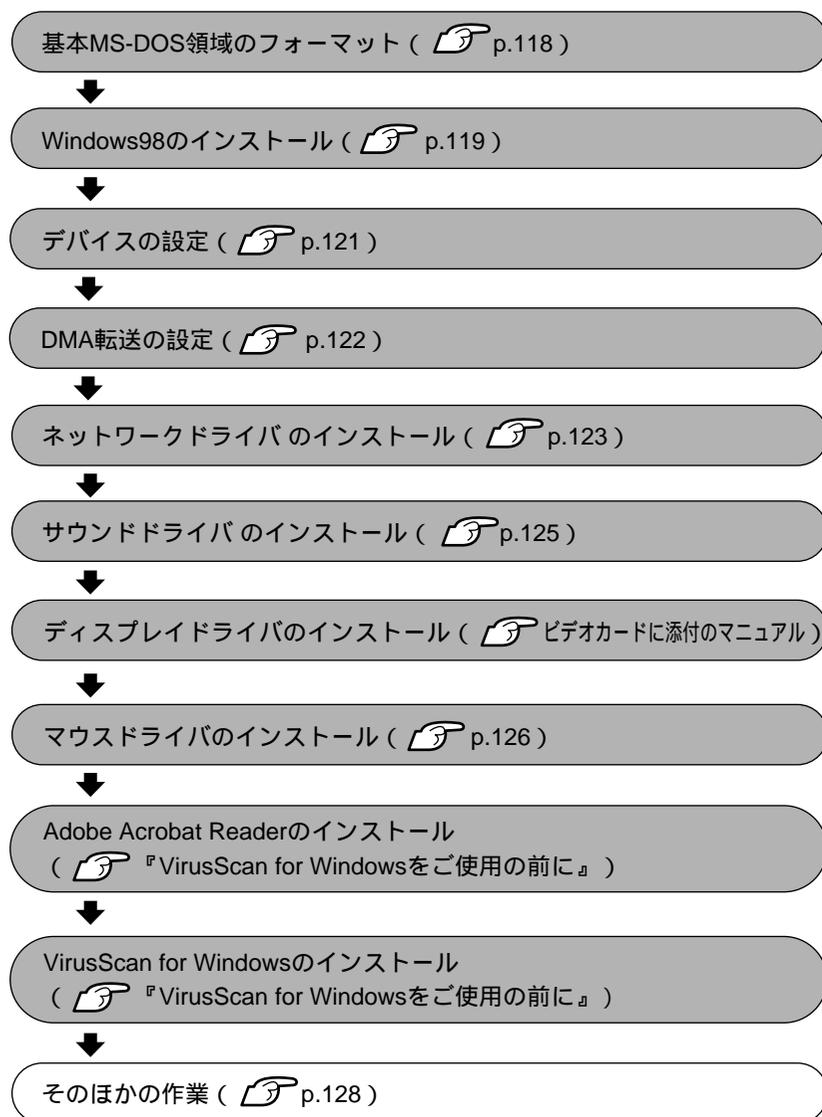
 p.24「バックアップディスクの作成」

そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

ソフトウェアのインストールは、次の順番で行います。



インストール時の注意

インストールを始める前に、次の点に注意してください。



弊社製以外のBIOSにアップデートすると、Windows98を再インストールすることができません。

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールはBIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDD領域のサイズ 購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしてあります。
Windows98のインストールは、必ずFAT32ファイルシステムを使用してください。FAT32ファイルシステム以外では、Windows98を再インストールすることができません。

ドライブ名 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。
Aドライブ:FDD
Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)
Dドライブ:CD-ROMドライブ

プロダクトキー Windows98をインストールする際には、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは、コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。

入力文字 インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載してありますが、入力する際は大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

**CD-ROMセット
アップ起動ディスク** 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使うときは、ライトプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトを外して書き込み可能状態にしてください。

 p.44「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

- Windows98
CD-ROMを要求
されたら
- デバイスドライバ類のインストール時に「Windows98 CD-ROM」が要求されることがあります。本書に何も記載がない場合は、「リカバリCD-ROM」をセットせずに、「ファイルのコピー元」に次のとおり入力してください。
- C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS
- CD-ROMドライブ
2台装着時
- 本機に、IDE仕様のCD-ROMドライブなどを2台装着している場合、Windows98のインストールは、必ずマスタ設定されたドライブから行ってください。スレーブ設定されたドライブからは、インストールすることができません。
- メーカー情報
- Windows98を再インストールすると、「コントロールパネル」「システムのプロパティ」に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows98をインストールする領域 (MS-DOS領域) をフォーマットします。
必ず基本MS-DOS領域をフォーマットしてからWindows98をインストールしてください。



制限

領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。必ず作成しておいてください。

 p.24「バックアップディスクの作成」

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。FORMATコマンドは、「Windows98起動ディスク」に登録されています。

- 1 「Windows98起動ディスク1」をFDDにセットして、コンピュータを起動します。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2.Start computer without CD-ROM support」を選択して を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージに従って、「Windows98起動ディスク2」に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FORMAT C: (はスペースを意味します。)
- 6 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、 を押して を押します。フォーマットが開始されます。
- 7 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

Windows 98のインストール

Windows98のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットし、コンピュータを再起動または電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します」と表示されたら、どれかキーを押します。
コンピュータを購入後、「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「供給されているリカバリCD-ROMをドライブにセットして下さい。」と表示されたら、「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットしてどれかキーを押します。
手順4の画面が表示されるまで数分かかります。
- 4 「Windowsのセットアップを開始します。フロッピードライブからフロッピーディスクを抜いてください」と表示されたら、FDを抜いてどれかキーを押します。
- 5 コンピュータが再起動し、自動的に「Windows 98セットアップ」が実行されます。
- 6 ファイルのコピーが終了すると、再びコンピュータが再起動します。
- 7 コンピュータが再起動したら、各項目の設定をします。
 - ユーザー情報
「名前」を必ず入力してください。
 - 使用許諾契約書
画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。
 - プロダクトキー
『COAラベル』に記載されている「Product key」を入力します。
- 8 「ウィザードの開始」と表示されたら、[完了]をクリックします。

- 9 画面の指示に従って「Windows 98 セットアップ」を行います。
接続しているディスプレイによっては、「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。
ディスプレイに添付のディスクを使用してデバイスドライバのインストールを行います。

 ディスプレイに添付のマニュアル

- 10 Windowsのセットアップが終了すると、Windowsが自動的に再起動します。
これでWindows 98のインストールは終了です。

デバイスの設定(Intel845チップセット用ドライバの設定)

Windows98が標準でサポートしている内容では本機が十分に機能しないため、メインボード上のデバイスが正常に使用できるように設定します。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥INFUPDATE¥SETUP
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 4 「セットアップ」画面が表示されます。[次へ]をクリックします。
- 5 「使用許諾契約書」画面で[はい]をクリックします。
- 6 「Readme情報」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「セットアップの完了」画面で「コンピュータを今すぐ再起動する。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
- 8 Windowsの起動時に「次の新しいドライバを検索しています。」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 9 「使用中のデバイスに最適な…」にチェックが付いた状態で[次へ]をクリックします。
- 10 「新しいドライバは、ハードドライブのドライバ…」と表示されたら、そのまま[次へ]をクリックします。
- 11 「次のデバイス用のドライバを検索します。」と表示されたら[次へ]をクリックします。

- 12 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」と表示されたら [完了] をクリックします。
- 13 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、[はい] をクリックします。
Windows が再起動すると、デバイスの設定は終了です。

DMA転送の設定

IDE HDDとIDE CD-ROMドライブへの転送処理速度を上げるために、次の設定を行います。HDDやCD-ROMドライブのほかにもATAPI IDE機器を接続している場合は、同様の手順で設定を行ってください。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「システム」アイコン - 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」項目をダブルクリックします。
- 4 「GENERIC IDE DISK TYPE47」項目をダブルクリックします。
- 5 「設定」タブをクリックし、オプションの「DMA」にチェックを付けます。
- 6 「サポートされていないハードウェアの注意」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
- 7 もう一度 [OK] をクリックして、プロパティ画面を閉じます。
- 8 「CD-ROM」項目をダブルクリックします。
- 9 表示されたデバイス名をダブルクリックします。
デバイス名は、使用しているモデルにより異なります。
- 10 「設定」タブをクリックし、オプションの「DMA」にチェックを付けます。

- 1 1 「サポートされていないハードウェアの注意」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
- 1 2 もう一度 [OK] をクリックしてプロパティ画面を閉じます。
- 1 3 [閉じる] をクリックすると、「今すぐ再起動しますか?」とメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。
Windowsが再起動するとDMA転送の設定は終了です。

■ ネットワークドライバのインストール

ネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。
インストールの前に、ネットワーク用ケーブルが本機のネットワークコネクタに接続されていることを確認します。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコン - 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「その他のデバイス」の下にある「PCI Ethernet Controller」をダブルクリックします。
- 5 「ドライバ」タブ - [ドライバの更新] をクリックします。
- 6 「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。[次へ] をクリックします。
- 7 「現在使用している...」にチェックが付いた状態で [次へ] をクリックします。

- 8 「検索場所の指定」にチェックを付けて次のとおり入力し「次へ」をクリックします。
D:¥LAN
- 9 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。Intel(R)PRO/100 VE Network Connection」と表示されます。「次へ」をクリックします。
- 10 「ディスクの挿入」画面が表示されたら「OK」をクリックします。
- 11 「ファイルのコピー元」に次のとおり入力して「OK」をクリックします。
D:¥LAN
- 12 「...更新されたドライバのインストールが完了しました。」と表示されたら「完了」をクリックします。
- 13 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら「はい」をクリックします。
Windowsが再起動するとネットワークドライバのインストールは終了です。

サウンドドライバのインストール

メインボード上のサウンド機能を使用する場合
メインボード上のサウンド機能専用のサウンドドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
D:¥AUDIO¥SETUP
- 4 「MS DirectX Version check」画面が表示されたら[次へ]をクリックします。
- 5 「インストールのセットアップ」画面で[次へ]をクリックします。
- 6 「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
- 7 Windows起動時に「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。[次へ]をクリックします。
- 8 「使用中のデバイスに最適な…」にチェックが付いた状態で[次へ]をクリックします。
- 9 「新しいドライバはハードディスクのドライバ…」と表示されたら、そのまま[次へ]をクリックします。
- 10 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。Sound MAX Integrated Digital Audio」と表示されたら[次へ]をクリックします。

- 1 1 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」と表示されたら[完了]をクリックします。
- 1 2 デスクトップ画面が表示されたら[スタート]-「Windowsの終了」-「再起動する」を選択して[OK]をクリックします。
Windowsが再起動するとサウンドドライバのインストールは終了です。

サウンドカードを使用する場合

サウンドカードを装着している場合は、サウンドカードに添付のサウンドドライバをインストールします。

 サウンドカードに添付のマニュアル

ディスプレイドライバのインストール

ビデオカードに添付のディスプレイドライバをインストールします。

 ビデオカードに添付のマニュアル

マウスドライバのインストール

ホイール付きマウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に次のとおり入力し[OK]をクリックします。
D:¥SETUP
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。...」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

コードレスキーボード/マウスを使用する場合

コードレスキーボード/マウスを使用している場合は、コードレスキーボード/マウス専用のデバイスドライバをインストールします。



コードレスキーボード/マウスに添付のマニュアル

Adobe Acrobat Readerと

VirusScan for Windowsのインストール

Adobe Acrobat Reader と VirusScan for Windows のインストールを行います。



『VirusScan for Windows をご使用の前に』

そのほかの作業

マニュアル
ディスクの
インストール

『ユーザーズマニュアル』(本書)のPDFファイルをインストールします。

1

「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。

2

[スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

3

「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。

A:¥SETUP

4

以降は画面の指示に従います。

セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

省電力機能の
設定

「電源の管理」 - 「電源設定」タブの設定値をインストール直後のまま変更せずに、コンピュータを使用すると、システム構成によっては正常に復帰できないことがあります。p.56「時間経過で実行」の「制限」をご覧ください。設定値を変更することをおすすめします。

各種ドライバの
インストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールはバックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧ください。



必要なドライバやユーティリティは、お使いになるシステム構成によって異なります。たとえば、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAXモデムカードを使用する場合 : FAXモデムドライバ

MOドライブを使用する場合 : MOドライバ

SCSIカード・SCSI機器を使用する場合 : SCSIドライバやSCSIユーティリティなど

Windows2000のインストール

Windows2000やデバイスドライバなどのインストール方法について説明します。

インストールの準備

再インストールが必要な場合 Windows2000の再インストールが必要なのは、次の場合です。

何らかの原因でWindows2000が起動しなくなった場合。
HDD領域の構成を変更した場合。  p.171「HDD領域の変更」

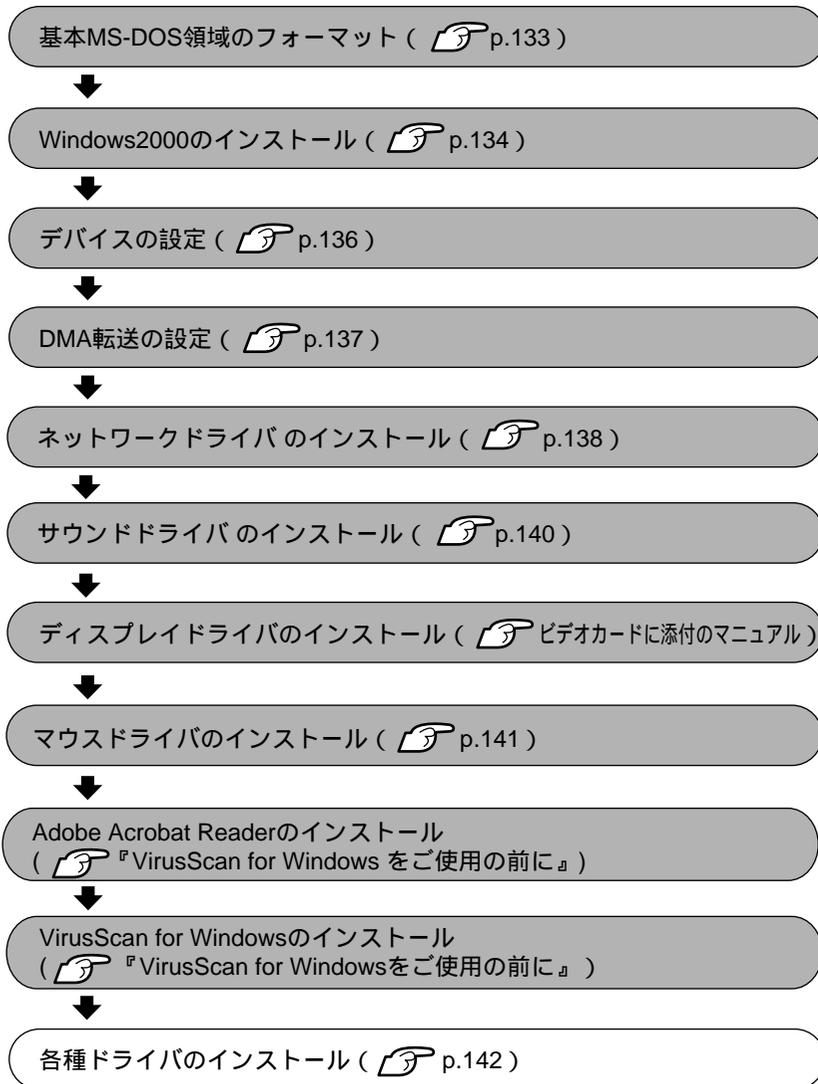
必要なメディア ソフトウェアをインストールするには、次のFDとCD-ROMが必要です。

- リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク
- リカバリCD-ROMセットアップ用プログラム、FORMATコマンドやFDISKコマンドが登録されています。
- リカバリCD-ROM
- Windows2000が登録されているCD-ROMです。
- ドライバCD
- 各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。
- マウスドライバCD
- マウスドライバが登録されているCD-ROMです。
- ビデオドライバディスク(ビデオカードによって名称が異なります。)
- お使いのビデオカード専用のディスプレイドライバが登録されているディスクです。
- ユーティリティCD
- VirusScan for WindowsとAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。
- バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD
- Windowsのセットアップ時に作成したFDです。作成していない場合は、HDDをフォーマットする前に必ず作成してください。
-  p.24「バックアップディスクの作成」

そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

ソフトウェアのインストールは、次の順番で行います。



インストール時の注意

インストールを始める前に、下記の点に注意してください。



弊社製以外のBIOSにアップデートすると、Windows2000を再インストールすることができません。

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールはBIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDD領域のサイズ 購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしてあります。
Windows2000のインストールは、必ずFAT32ファイルシステムを使用してください。FAT32ファイルシステム以外では、Windows2000を再インストールすることができません。

ドライブ名 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。
Aドライブ:FDD
Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)
Dドライブ:CD-ROMドライブ

プロダクトキー Windows2000をインストールする際には、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは、コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。

入力文字 インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載してありますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

CD-ROMセットアップ起動ディスク 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使うときは、ライトプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトを外して書き込み可能状態にしてください。

 p. 44「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

- Windows2000
CD-ROMを
要求されたら
- デバイスドライバ類のインストール時に「Windows2000 CD-ROM」を要求されることがあります。本書で何も記載がない場合は、「リカバリCD-ROM」をセットせずに、「ファイルのコピー元」に次のとおり入力してください。
C:¥1386(「1」はアルファベット)
- CD-ROMドライブ
2台装着時
- 本機に、IDE仕様のCD-ROMドライブなどを2台装着している場合、Windows2000のインストールは、必ずマスタ設定されたドライブから行ってください。スレイブ設定されたドライブからは、インストールすることができません。
- メーカー情報
- Windows2000を再インストールすると、「コントロールパネル」-「システムのプロパティ」に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows2000をインストールする領域(MS-DOS領域)をフォーマットします。
必ず基本MS-DOS領域をフォーマットしてからWindows2000をインストールしてください。



制限

領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。
バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。必ず作成しておいてください。

 p.24「バックアップディスクの作成」

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。
FORMATコマンドは、「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」に登録されています。

- 1 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータを起動します。
- 2 「コンピュータを再起動します。…」と表示されたら、どれかキーを押します。
コンピュータを購入後、「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います。…」と表示されたら、 を押します。
- 4 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FORMAT C: (はスペースを意味します。)
- 5 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。
必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

Windows 2000のインストール

Windows2000のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットし、コンピュータを再起動または電源を入れます。
- 2 「Windows2000の再インストールを行います...」と表示されたら、「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットして、どれかキーを押します。手順3の画面が表示されるまで数分かかります。
- 3 「セットアッププログラムのMS-DOS実行部は完了しました...」と表示されたら、FDを抜き  を押します。
- 4 「セットアップへようこそ」画面が表示されたら、 を押して続行します。
- 5 「Windows2000ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows2000のインストールが中止されます。
- 6 「以下のいずれかのキーを押して、キーボードの種類を特定してください。」と表示されたら、 を押します。
- 7 「...一覧からパーティションを選択してください。」と表示されます。通常は「C:」を選択して  を押します。
- 8 「...にWindows2000をインストールします。」と表示されたら、「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択し、 を押します。
- 9 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーが終了すると、自動的にWindowsが再起動します。

- 10 「Windows2000セットアップウィザードの開始」と表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
- 地域
通常は、[次へ] をクリックします。
ソフトウェアの個人用設定
ここでは「名前」を必ず入力してください。
プロダクトキー
『COAラベル』に記載されている「Product Key」を入力します。
コンピュータ名とAdministratorのパスワード
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
日付と時刻の設定
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
ネットワークの設定
通常は、「標準設定」にチェックを付けて[次へ] をクリックします。
ワークグループまたはドメイン名
ネットワーク管理者の指示に従って「ワークグループまたはドメイン名」を入力します。
- 11 「Windows2000セットアップウィザードの完了」と表示されたら、CD-ROMを取り出し[完了] をクリックすると、Windowsが再起動します。
- 12 「ネットワーク識別ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 13 「このコンピュータのユーザー」と表示されたら「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。
- 14 「ネットワーク識別ウィザードの終了」と表示されたら[完了] をクリックします。
これでWindows2000のインストールは終了です。

デバイスの設定(Intel845チップセット用ドライバの設定)

Windows2000が標準でサポートしている内容では本機が十分に機能しないため、メインボード上のデバイスが正常に使用できるように設定します。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥INFUPDATE¥SETUP
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 4 「セットアップ」画面が表示されます。[次へ]をクリックします。
- 5 「使用許諾契約書」画面で[はい]をクリックします。
- 6 「Readme情報」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「コンピュータを今すぐ再起動する。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
Windowsが再起動するとデバイスの設定は終了です。

DMA転送の設定

IDE CD-ROMドライブへの転送処理速度を上げるために、次の設定を行います。CD-ROMドライブのほかにもATAPI IDE機器を接続している場合は、同様の手順で設定を行ってください。なお、IDE HDDは自動的に設定されるので設定の必要はありません。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]をクリックします。
- 4 「IDE ATA/ATAPIコントローラ」をダブルクリックします。
- 5 「セカンダリIDEチャンネル」をダブルクリックします。
- 6 「詳細設定」タブをクリックします。
- 7 「デバイス0」、「デバイス1」の「転送モード」から「DMA」を選択します。ただし、「現在の転送モード」が「無効」と表示されている場合は、デバイスが接続されていないので設定を行う必要はありません。
- 8 [OK]をクリックします。
- 9 「今コンピュータを再起動しますか？」とメッセージが表示されます。[はい]をクリックします。
Windowsが再起動すると、DMA転送の設定は終了です。

ネットワークドライバのインストール

ネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。

インストールの前に、ネットワーク用ケーブルが本機のネットワークコネクタに接続されていることを確認します。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]をクリックします。
- 5 「その他のデバイス」の下にある「イーサネットコントローラ」をダブルクリックします。
- 6 「ドライバ」タブ - [ドライバの更新]をクリックします。
- 7 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 8 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」と表示されたら、「デバイスに最適なドライバを検索する」にチェックが付いた状態で[次へ]をクリックします。
- 9 「検索場所のオプション」で、「場所を指定」にのみチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 10 「製造元のファイルのコピー元」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
D:¥LAN

- 1 1 「次のデバイスのドライバが検索されました。」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 1 2 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了(Intel (R) PRO/100 VE Network Connection)」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 1 3 デスクトップに表示されている画面をすべて閉じ、[スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択し、[OK]をクリックします。Windowsが再起動すると、ネットワークドライバのインストールは終了です。

サウンドドライバのインストール

メインボード上のサウンド機能を使用する場合

メインボード上のサウンド機能専用のサウンドドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
D:¥AUDIO¥SETUP
- 4 「インストールのセットアップ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「InstallShieldウィザードの完了」と表示されたら「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックマークが付いている状態で[完了]をクリックします。
Windowsが再起動すると、サウンドドライバのインストールは終了です。

サウンドカードを使用する場合

サウンドカードを使用している場合は、サウンドカードに添付のデバイスドライバをインストールします。

 サウンドカードに添付のマニュアル

ディスプレイドライバのインストール

ビデオカードに添付のディスプレイドライバをインストールします。

 ビデオカードに添付のマニュアル

マウスドライバのインストール

ホイール付きマウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的にセットアップ画面が表示されます。
自動的にセットアップ画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に次のとおり入力し、[OK]をクリックします。
D:*SETUP
- 2 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 4 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

コードレスキーボード/マウスを使用する場合

コードレスキーボード/マウスを使用している場合は、コードレスキーボード/マウス専用のデバイスドライバをインストールします。

 コードレスキーボード/マウスに添付のマニュアル

Adobe Acrobat Readerと

VirusScan for Windowsのインストール

Adobe Acrobat Reader と VirusScan for Windows のインストールを行います。

 『VirusScan for Windows をご使用の前に』

各種ドライバのインストール

マニュアル
ディスクの
インストール

『ユーザーズマニュアル』(本書)のPDFファイルをインストールします。

- 1 「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

各種ドライバの
インストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧ください。



必要なドライバやユーティリティは、お使いになるシステム構成によって異なります。たとえば、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAXモデムカードを使用する場合 : FAXモデムドライバ

MOドライブを使用する場合 : MOドライバ

SCSIカード・SCSI機器を使用する場合 : SCSIドライバやSCSIユーティリティなど

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから、もう一度入れなおす場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

 を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.96「BIOS Setupユーティリティの操作」

 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。エラーメッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

起動時にエラーメッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.160「警告メッセージが表示されたら」

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

 p.98「設定値をもとに戻すには」

BIOSを初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.169「CMOS RAMの初期化」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

確認と対処

「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.102「Mainメニュー画面」-「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が入力されない場合があります。

 p.36「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.169「CMOS RAMの初期化」

現象 起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

- ・ DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・ Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・ Operating system not found

確認と対処 「起動ディスク」などシステムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.153「HDDの不具合」

HDDを増設したあと起動しなくなった場合には、HDDが正しく装着されているか確認してください。

 p.86「ドライブ装置の装着」

システムが登録されていないFDがセットしてある場合はFDを抜いてください。

現象 ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処  +  +  を押してリセットします。

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.31「電源の切り方」

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.166「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない

確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合

現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。 キーを押してオン
の状態にします。

 p.36「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。

確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電
源を入れる前に行ってください。

 p.10「コンピュータの設置」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあり
ます。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合に
は、 +  +  でリセットしてください。

 p.31「電源の切り方」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 日本語キーボードドライバの特性により、キートップに印字されている一
部の文字は入力できません。

 p.37「キーボードを使う」

Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネ
ル」-「システム」アイコン(Windows2000は、「キーボード」アイコン)をダブル
クリックして確認します。

Windows98 : 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)

Windows2000 : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キー
ボード

マウスの不具合

現象 マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処 マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.10「コンピュータの設置」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.31「電源の切り方」

現象 OSやアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処 マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」

MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象 マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処 マウスのクリーニングを行ってください。

 p.164「マウスのお手入れ」

ディスプレイの不具合

現象 起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがビデオカードに正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

ピープ音が鳴った場合は、起動時の診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してください。

 p.54「省電力機能」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがビデオカードに正しく接続されているか確認してください。

 p.10「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。Windows98の場合はSafeモードで、Windows2000の場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Safeモードでの起動(Windows98の場合)

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に **Ctrl** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**←** を押します。

VGAモードでの起動(Windows2000の場合)

Windows2000をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。VGAモードは、Windows2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「VGAモードを有効にする」を選択し、**←** を押します。

FDDの不具合

現象 FDに正常にアクセスできない。

確認と対処 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥
デバイスの準備ができていません。
[OK]

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期値となっているか確認してください。

起動ディスクなどシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 FDに書き込みできない。

確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.44「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。

 p.100「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 増設したHDDが使用できない。

確認と対処 新しいHDDを使用する場合にはHDDの領域確保とフォーマットをする必要があります。

 p.171「HDD領域の変更」

増設したHDDの設定(マスタ/スレイブ)、接続しているIDEコネクタ(プライマリ/セカンダリ)、HDDの電源ケーブルの接続などを確認します。

 p.86「ドライブ装置の装着」

ケーブル類が逆差しされていないか確認します。ケーブルは、赤い線のある側をコネクタの1番に差します。

IDE HDDを増設した場合は、「BIOS Setupユーティリティ」でHDDの設定を確認します。「BIOS Setup ユーティリティ」の「Mainメニュー」で増設したHDDのTypeが「None」になっている場合は「Auto」に変更します。

 p.100「Mainメニュー画面」

現象 HDDからWindowsなどのOSが起動しない。

確認と対処 起動するHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。

 p.108「Bootメニュー画面」

CD-ROMドライブの不具合

- 現象** セットしたCDにアクセスできない。
- 確認と対処** CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプの点灯中は読み込みの準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。
- コンピュータに添付されていたCD-ROM(「ユーティリティCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。
- セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

- 現象** CDをセットすると画面が開いてしまう。
- 確認と対処** セットしたCDに自動再生機能があり、自動的に画面を開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、×をクリックして、画面を閉じます。その後、「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。

- 現象** セットしたCDが読み込めない。
- 確認と対処** CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player(CDプレーヤー)」が標準で添付されています。

現象

音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

アンプ内蔵スピーカを、本体背面(サウンドカードを装着している場合は、サウンドカード)のライン出力コネクタに接続しているか確認します。

CD-ROMドライブのオーディオコネクタと、メインボードの「CD-1」コネクタ(サウンドカードを装着している場合は、サウンドカード)を、CDオーディオケーブルで接続しているか確認します。

 p.180「コンピュータ内部のケーブル接続」

アプリケーションソフトの不具合

現象

アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処

過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象

アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処

アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。どうしてもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象

表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

起動時のメモリチェックや、Windows上ではメモリ容量の表示が正しくされないことがあります。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Mainメニュー画面」-「Installed Memory」で総メモリ容量を確認してください。

 p.96「BIOS Setupユーティリティの操作」

DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象 インストール中に「WindowsCD」を要求されたので、「リカバリCD-ROM」をセットしたが、「ファイルが見つかりません」と表示されインストール作業が進まない。

確認と対処 「リカバリCD-ROM」は、リカバリ専用で作成されているため、リカバリCD-ROMから1つ1つのファイルを直接読み込むことはできません。「ファイルのコピー元」に次のフォルダを指定してください。
Windows98の場合 : C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS
Windows2000の場合 : C:\I386\I386\Iはアルファベット
(上記ファイルがCドライブにある場合)

現象 インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処 本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。
CD-ROMドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。
本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。
インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

拡張カード、周辺機器の増設に関する不具合

現象 拡張カード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処 増設した機器が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した装置のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいかどうか確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張カードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しない場合があります。詳細は拡張カード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

- ・ Windows98では、「コントロールパネル」-「システム」-「デバイスマネージャ」でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。
- ・ Windows2000では、「コントロールパネル」-「システム」-「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。

周辺機器を追加するために拡張カードを装着した場合、周辺機器と拡張カードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張カードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張カードのマニュアルを確認してください。

拡張カードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張カード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

プリンタの不具合

現象 印刷できない。

確認と対処 プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているかどうか確認してください。

プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象 システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

確認と対処 内蔵スピーカのコネクタが接続されているか確認します。

 p.180「コンピュータ内部のケーブル接続」

内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 音が鳴らない。

確認と対処 本機の内蔵スピーカはブザーの音を出すためのものです。それ以外の音を鳴らしたい場合は、アンプ内蔵スピーカを本体背面(サウンドカードを装着している場合はサウンドカード)のライン出力コネクタに接続してください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF000H-FFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、内蔵リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してみてください。☞ p.166「リチウム電池の交換」
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してみてください。 ☞ p.166「リチウム電池の交換」
CMOS CHECKSUM ERROR	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	BIOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。BIOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDDの初期化ができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。意図的にキーボードなしで使用する場合には、BIOS Setupユーティリティで、エラーチェックの設定を「Halt On: All But Keyboard」(キーボード関連以外のエラーチェックを行う)に設定します。これで、キーボードが接続されていなくてもコンピュータは正常に起動します。

警告メッセージ	説明および対処法
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。



付 録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、
リチウム電池の交換、HDD領域の変更
方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。



警告

小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。

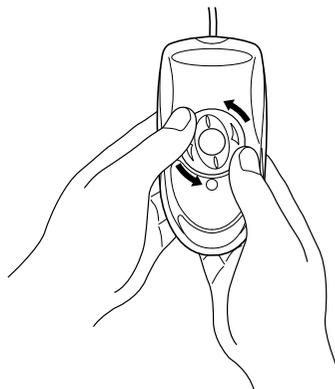
マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



- 2 マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、時間や設定した値が何もしないのになってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032(または同等品)



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



DIMMやドライブ装置の交換・増設、拡張カードの装着、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

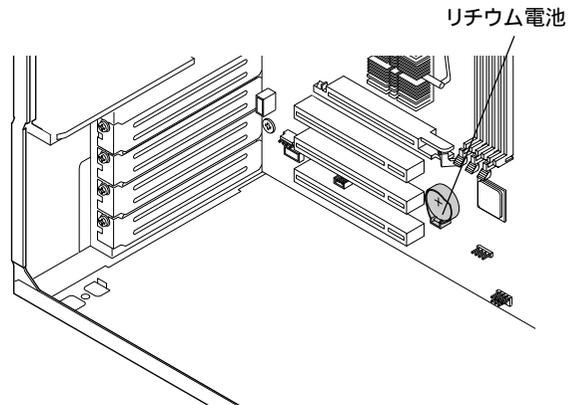
リチウム電池の交換は、次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。

 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 2 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

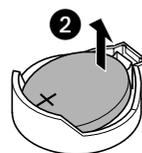
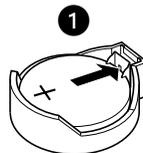


- 3 必要に応じて、作業の妨げになるケーブル類や拡張カードなどを取り外します。

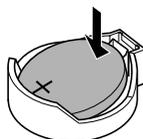
 p.75「拡張カードの装着」

- 4 リチウム電池を抜きます。

- ① 電池ホルダの留め金を押します。
- ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



- 5 新しいリチウム電池を取り付けます。
刻印面 + 側 が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。
取り付ける時には、「カチッ」と音が鳴ります。



- 6 手順3でケーブル類や拡張カードなどを取り外した場合は、もとおりに取り付けます。
 p.75「拡張カードの装着」
- 7 本体カバーを取り付けます。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 8 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとおりに接続します。
- 9 コンピュータの電源を入れます。 **Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.96「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 10 **F5** を押して「Load Setup Defaults」(初期値に戻す)を実行します。
- 11 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 12 「Exitメニュー」の「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れていたり、設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になる場合があります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



DIMMやドライブ装置の交換・増設、拡張カードの装着、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.109「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化は、次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 リチウム電池を外します。
 p.166「リチウム電池の交換」
- 3 約1分間放置します。
- 4 リチウム電池を取り付けます。
 p.166「リチウム電池の交換」
- 5 本体カバーを取り付けます。
 p.64「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 7 コンピュータの電源を入れます。再起動すると、「CMOS checksum error-Defaults loaded」とメッセージが表示されます。**[Delete]**を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
- 8 **[F5]**を押して「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
- 9 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 10 「Exitメニュー」の「Exit Saving Changes」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

HDD領域の変更



HDD領域の変更をすると、バックアップディスクを作成することができません。

HDD領域の変更をする前に、必ずバックアップディスクを作成しておいてください。

 p.24「バックアップディスクの作成」

MS-DOS領域の種類

MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合には必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



HDD領域の変更

HDD領域の構成を変更する手順を説明します。通常は、HDD領域の構成を変更する必要はありません。MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいときに行います。

HDD領域の構成を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を確保しなくてはなりません。

手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除したりフォーマットする前に、必ずWindowsのプロダクトキーを確認してください。Windowsをインストールするには、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは、『COAラベル』に記載されています。

 p.3「ご使用前の確認事項」

領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

MS-DOS領域の削除

↓
既存の領域を削除します。HDD領域は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除します。

MS-DOS領域の作成

↓
使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で作成します。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、次のディスクに登録されています。

Windows98 : Windows98起動ディスク

 p.26「Windows起動ディスクの作成」

Windows2000 : リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク

大容量ディスクサポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。「Y」を選択すると、FAT32ファイルシステムでHDD領域が作成されます。

購入時のHDDの「C」ドライブには、FAT32ファイルシステムを使用してWindowsがインストールされています。「C」ドライブのファイルシステムを変更すると、Windowsを再インストールすることができません。

基本MS-DOS領域をアクティブに設定する

FDISKコマンドを使用して、1台のHDDに基本MS-DOS領域「C」ドライブ)と拡張MS-DOS領域「D」ドライブ以降)を作成する場合は、必ず「C」ドライブ(Windowsをインストールする領域)をアクティブに設定します。アクティブに設定していないと、Windowsをインストールすることができません。

アクティブの設定は、MS-DOS領域の作成時に行います。p.176「MS-DOS領域の作成」の手順に従ってください。

既存領域の削除

起動方法

(Windows 98の
場合)

次の方法でWindows98を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「Windows98起動ディスク1」をFDDにセットして、Windowsを起動します。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2. Start Computer Without CD-ROM Support」を選択して  を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージに従って、「Windows98 起動ディスク2」に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、「Windows98起動ディスク1」に入れかえます。

起動方法

(Windows 2000
の場合)

次の方法でWindows2000を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータの電源を入れます。
「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときは、ライトプロテクトを外します。
 p.44「ライトプロテクト(書き込み禁止)」
- 2 「コンピュータを再起動します」と表示されたら、どれかキーを押します。
コンピュータを購入後、「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用する時のみ表示されます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います。…」と表示されたら、 を押します。
- 4 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。

既存領域の 削除

- 1 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示されます。 または を押して を押します。
Windowsをインストールする領域を作成する場合は、必ず「Y」を選択します。
- 3 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 4 「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。
基本MS-DOS領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)
 を押してから を押します。
- 5 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。
- 6 削除する領域のボリュームラベルを入力し、 を押します。
「ボリュームラベル」項目に何も表示されていない場合、ボリュームラベルは設定されていません。何も入力せずに を押します。
- 7 確認メッセージが表示されたら、 を押して を押します。
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 8 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合は、「MS-DOS領域の作成 p. 176 手順4」に移ります。
- 9 FDISKを終了する場合は、 を押します。
- 10 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

MS-DOS領域の作成

基本MS-DOS 領域の作成

- 1 下記ページを参照してWindowsを起動します。
 p.174「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 または を押して を押します。
Windowsをインストールする領域を作成する場合は、必ず「Y」を選択します。
- 4 処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。
最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は2GBです。

- 7 を入力した場合と を入力した場合で次のように作業が異なります。
- を入力して を押した場合
基本 MS-DOS領域が、最大サイズで作成されアクティブに設定されます。
FDISKを終了させてから + + を押して、Windowsを再起動します。
大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。「基本MS-DOS領域フォーマット」に進みます。
大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。
- を入力して を押した場合
 を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。
- 8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。 を押してから を押します。
2台目以降のHDDはこの作業は必要ありません。手順12に進みます。
- 10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。 を押してから を押します。
- 11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

拡張MS-DOS領域と
論理MS-DOS
ドライブの
作成

- 1 2 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 4 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま を押してください。
- 1 5 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 6 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、を押します。
- 1 7 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 8 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。これでMS-DOS領域の作成は終了です。再起動後、作成したすべての領域をフォーマットしてください。

 p.179「MS-DOS領域のフォーマット」

MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

- 1 下記ページを参照してWindowsを起動します。
 p.174「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。(Cドライブをフォーマットする場合)

FORMAT C: (はスペースを意味します。)
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、
 を押して を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。
必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

コンピュータ内部のケーブル接続

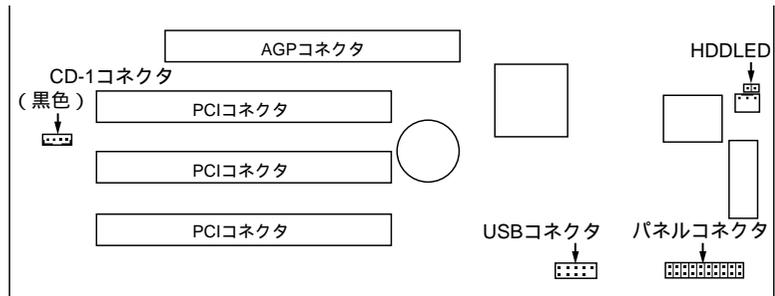
コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って、これらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置 (メインボード上)

各種コネクタのメインボード上の位置は次のとおりです。

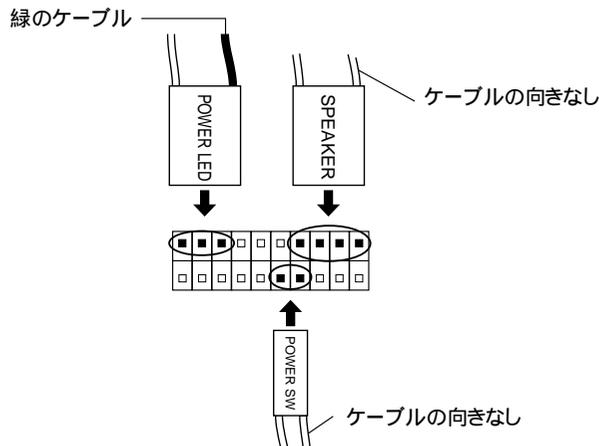


本体内部ケーブル との接続

各種コネクタへの接続は次のとおりです。

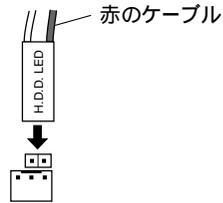
パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



HDD LEDコネクタ

HDD LEDコネクタには次のようにケーブルを接続します。



CD-1コネクタ

5.25型ドライブ装置(CD-ROMドライブなど)に接続されたCDオーディオケーブルを接続します。

 p.90「ドライブ装置(IDE装置)の接続例」

サウンドカードを使用している場合は、CDオーディオケーブルをサウンドカード側に接続します。詳しくは、サウンドカードに添付のマニュアルをご覧ください。

USBコネクタ

前面USBコネクタの内部ケーブルをコネクタの向きに合わせて接続します。

機能仕様一覧

CPU		Pentium 4プロセッサ
メモリ	ROM	BIOS 他 512KB EEPROM
	メインメモリ	最大1536MBまで増設可能(Windows98は最大512MB)
サウンドコントローラ		AC'97 CODEC(切り離し可能)
キーボード		日本語対応109キー
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵
	内蔵HDD	IDE HDD1基内蔵 Ultra ATA/100対応
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)
	シリアルインタフェース	2 RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	サウンドインタフェース	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、 マイク入力コネクタ×1、ゲームポート/MIDIコネクタ×1
	ネットワークインタフェース	1(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動認識)
	USBインタフェース	4(前面2×背面2)
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	1(FDDで1ベイ使用済み)
	5.25型ドライブベイ	2(CD-ROMドライブで1ベイ使用済み)
	HDDドライブベイ	2(HDDで1ベイ使用済み)
外部拡張スロット		AGP対応スロット×1(ボード長200mmまで装着可能(装着済み)) PCI対応スロット×3(ボード長200mmまで装着可能)
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)
電源容量		166W(最大280W)
入力電圧		AC 100 V ± 10% (50/60 Hz)
温湿度条件		温度:10 ~ 35 湿度:20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体:約170(幅)×345(奥行)×357(高さ)mm(突起部除く)
重量		本体:約10.0Kg(本体のみ)
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		待機時消費電力81W

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

Accelerated Graphics Portの略で、CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略で、コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

CPU

Central Processing Unitの略で、コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略です。CPUを介さずに、周辺機器とメモリ間で直接データ転送を行います。

使用例 DMA転送により高速なデータの出入りが可能。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のことです。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

使用例 サウンドカードで使用するDMAチャンネルを設定する。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類のことで、Dynamic Random Access Memoryの略です。

コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイス間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけでなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略で、周辺機器からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドカードではIRQ7を使用します。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

OS

Operating Systemの略で、コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种で、一般的に採用されている拡張バスのことです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応などメリットが多いです。

高速性を要求される拡張カードに使用されません。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略です。コンピュータと周辺機器間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。よく使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

使用例 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

SDRAM

DRAMの一種でアクセスが速いのが特長です。最近ではDRAMの代わりにSDRAMがメインメモリに主に使用されています。

USB

Universal Serial Busの略で、比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。USB対応の製品に接続します。

Ultra ATA/100

IDEインタフェース上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能で、DOS/V機の基本的な表示機能です。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きする。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのように、ユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺機器の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

解像度

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張カードを装着するためのスロットです。拡張カードには、AGPバス用拡張カード、PCIバス用拡張カードがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

起動する

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすることをソフトウェアを実行して使用できるようにすることも起動といいます。

類義語 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源を入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンプスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンプスイッチの設定は、ジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

ドライブレター

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするために、CPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で、高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のことです。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回すもの(強制空冷)があります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことで、PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張カードや周辺機器などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDやFDにつけた名称のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことで、主記憶とも呼びます。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 本機のメモリ容量(=メインメモリ)は128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FD)	41
2DD(FD)	41
3.5型フロッピーディスクドライブ	8、41
5.25型ドライブベイへの装着	79

A

Adobe Acrobat Reader	7
~のインストール	127、141
AGP	75

B

BIOSセットアップユーティリティ	94
Boot Sequence	108

C

CapsLock	38
CD-ROMドライブ	8、47
~の接続	87
~の不具合	154
CD-1コネクタ	180
CMOS RAMの初期化	169
COAラベル	2

D

DIMM (メモリ)	70
~不具合	156
DMA転送の設定	
Windows98インストールモデル	123
Windows2000インストールモデル	137

F

FAT32ファイルシステム	46、173
FD (フロッピーディスク)	41

FDD (フロッピーディスクドライブ)	8、41
~接続	92
~の不具合	152
FDISKコマンド	173
FORMATコマンド	179

H

HDD (ハードディスクドライブ)	45
~装着	82
~の不具合	153
~領域の変更	171
HDDアクセスランプ	8
HDDベイの取り付け/取り外し	82

I

IDEケーブル	88
IDE装置	87

M

MIDIコネクタ	9
MO	49
MOドライブ	49
MS-DOS領域	171
MS-DOS領域のフォーマット	179
MS-IME	37

N

NumLock	38
---------------	----

P

Passwordの設定	102
-------------------	-----

S

Safeモード	151
Scroll Lock	38
SCSI装置	89
Supervisor Password	102

U

Ultra ATAケーブル	88
USBコネクタ	8、9、60
User Password	102

V

VGAコネクタ	9
VGAモード	151
VirusScan for Windows	7、60

W

Windows98	(7)
~のセットアップ	20
バックアップディスクの作成	24
~起動ディスクの作成	26
~のインストール	114
Windows2000	(7)
~のセットアップ	22
バックアップディスクの作成	24
セットアップブートディスクの作成	27
~のインストール	129
Windowsキー	39

50音順

あ

アイコン	(8)
アクティブ	173
アプリケーションソフトの不具合	155

い

イジェクトホール (CD-ROMドライブ) ..	8、48
インストール	
Windows98のインストール	114
Windows2000のインストール	129
インストール時の不具合	157

う

ウィルス	60
ウィルススキャンのインストール	127、141

お

お手入れ	164
お問い合わせ情報ラベル	2

か

解像度の変更	52
拡張カード	75
~不具合	158
拡張スロットの仕様	75
拡張MS-DOS領域	171

き

キーボード	36
~コネクタ	9
~の接続	14
~の不具合	148
キーロック表示ランプ	38
起動順位	108

起動ディスクの作成	26、27
起動方法（起動ディスク使用）	174
基本MS-DOS領域	171
基本MS-DOS領域のフォーマット	
Windows98インストールモデル	118
Windows2000インストールモデル	133
機能キー	36
機能仕様一覧	182
休止状態	54
強制取り出し	
CD-ROM	48
MO	51
く	
クリック	40
け	
警告メッセージ	160
ケーブルセレクト	87
ゲームポート/MIDIコネクタ	9
こ	
コンピュータウイルス	60
さ	
再インストール	
Windows98のインストール	114
Windows2000のインストール	129
サウンドカード	58、98
サウンド機能	58
サウンドドライバのインストール	
Windows98インストールモデル	125
Windows2000インストールモデル	140

し	
システム構成	4
システムの拡張	62
シリアルコネクタ	9、60
周辺機器の不具合	158
省電力機能	53
～の不具合	147
仕様	182
す	
数値キー	36
スーパーバイザーパスワード	102
スクロール	40
スタンバイ	54
スピーカの不具合	159
スレイブ	88
せ	
セカンダリ	87
セットアップ	
Windows98インストールモデル	20
Windows2000インストールモデル	22
セットアップブートディスクの作成	27
そ	
ソフトウェアの不具合	155
た	
大容量ディスクサポート	173
タスクバー	(8)
タブ	(8)
ダブルクリック	40

ま

マイク入力コネクタ	9
マウス	40
~ コネクタ	9
~ ドライバのインストール	
Windows98インストールモデル	127
Windows2000インストールモデル	141
~ のお手入れ	164
~ の接続	15
~ の不具合	149
マスタ	88
マニュアルディスク	7
マニュアルディスクのインストール	
Windows98インストールモデル	128
Windows2000インストールモデル	142

め

メモリ (DIMM)	70
~ の不具合	156

ゆ

ユーザーパスワード	102
-----------------	-----

ら

ライトプロテクト (書き込み禁止)	
FD	44
MO	51
ライン出力コネクタ	9
ライン入力コネクタ	9

り

リセット	33
リチウム電池の交換	166

れ

冷却ファン	9
-------------	---

ろ

論理MS-DOSドライブ	171
--------------------	-----

Memo

Memo

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

本装置は、(社)電子情報技術産業協会(社)日本電子工業振興協会)のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Celeron は Intel Corporation の商標です。

Adobe Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売株式会社



大豆油インキを
使用しています。



このユーザーズマニュアルは
再生紙を使用しています。

C77170001 01.10-15.10(SO)